

衛星設計コンテスト 22 周年記念

衛星設計コンテスト 20 年の歩み

衛星設計コンテスト 20 年史編集委員会

「衛星設計コンテスト 20年の歩み」発行にあたって

本衛星設計コンテストは、1993年に第1回を開催して以来、毎年実施されて今年で22回目を迎えることになりました。

1993年頃、宇宙開発は各国が国の威信をかけて推進し、我が国でも多くの衛星が打上げられ、一般社会でも宇宙への注目が高くなり、特に若い学生方の宇宙に対する熱意は非常に盛り上がってきました。そこで各大学では「宇宙」を銘打つ学科が創設されましたが、大学では宇宙に関する一般的な講義はあっても、具体的なプロジェクトまで関与することがまずありませんでした。

一方、イギリスのサレー大学が小型衛星を打ち上げたり、アメリカの大学が手掛けるなどの事例が出てきました。そこで、我が国としても若者の熱意と学校での宇宙教育との「はしわたし」する仕組みが出来ないものかと日本機械学会・日本航空宇宙学会・電子情報通信学会の3学会の有志が文字通り手弁当で検討され、その手法として「衛星設計コンテスト」が生まれました。

今日、本コンテストの活動の趣旨は、高校生から大学院生を対象にした衛星ミッションや衛星設計を競うコンテストを行い、衛星設計や宇宙ミッションの創造を通じて、将来の宇宙開発・利用を担う人材育成に貢献することです。

そこでこれを機会に、これまでの長年の活動に関して、20年史としてその成果などを纏めることにいたしました。

平成26年12月26日

衛星設計コンテスト20年史編集委員会

折井 武、中島 厚、前田 惟裕、島田 一雄、小山 孝一郎

目次

衛星設計コンテスト 22 周年に寄せて

衛星設計コンテスト実行委員会 名誉会長 林 友直	1
--------------------------------	---

衛星設計コンテストの発足経緯

第 1～16 回衛星設計コンテスト実行委員会幹事委員 八坂 哲雄	4
--	---

衛星設計コンテストと航空高専のかかわり

衛星設計コンテスト 実行委員 島田 一雄	9
----------------------------	---

1. 沿革	11
-------------	----

2. 衛星設計コンテスト受賞作品一覧	12
--------------------------	----

応募件数と最終審査会発表件数

受賞件数

3. 運営体制・歴代委員一覧	22
----------------------	----

4. 活動記録	26
---------------	----

5. 今後の活動について	32
--------------------	----

衛星設計コンテスト 22周年に寄せて

衛星設計コンテスト実行委員会 名誉会長 林 友直
(東京大学/宇宙科学研究所 名誉教授)

立ち上げの頃

今からおよそ半世紀前のことになるが、日本の人工衛星の研究開発は宇宙科学研究所と宇宙開発事業団に委ねられていた。多くの人の胸を躍らせるこの種の活動が将来に向けて持続的に発展するためには、若い世代を育てる仕組みがぜひとも必要である。この発想から本コンテストは企画された。私はたまたまその立ち上げの現場近くに居合わせたのが、その発足に際して飯田尚志、伊藤献一、土屋和雄、中島厚、堀川康、八坂哲雄氏をはじめとする当時の若手の実行力に負うところが大きい。

実行委員会と学会

基本的な骨組みは学会に根差したものとすべく、まずは宇宙に關係の深い日本航空宇宙学会、日本機械学会、電子情報通信学会の3学会に声をかけ、それぞれ実行委員を出して頂き、学会活動の一環として動けるよう配慮されたところが特徴であり、また重要である。中島厚氏（当時航空宇宙技術研究所）の肝いりで結成されていた小型衛星研究会活動も大きな支えとなった。

第11回と第15回からは、宇宙活動と縁の深い地球電磁気圏学会と天文学会からそれぞれ実行委員を出して頂き、コンテスト運営の強化を図っている。

その後実行委員会にはさらに企画委員会を設けて活動に機動力をもたせた。これらの内容的進化は日本宇宙フォーラムによる的確な事務処理と、諸委員会委員各位の熱意に負うところが大きい。その中の一人として活躍された目黒在氏を道半ばにして失ったことは誠に残念である。同氏が身を以て示された常に前向きの姿勢はこれからも随所に生かされて運営されるものと信じている。

募集テーマと対象

第1回コンテストの募集テーマとしては「人工衛星の設計」と「宇宙活動に関するアイデア」という二つの部門を設け、大学、高専の学生を対象として提案を募るところから始まった。第13回からは「ジュニアの部」を設けて応募者の参加範囲を大学院から高校生徒まで広げている。

海外からの応募も何回かあったが、第20回からは国際的にも門戸を開くことを募集要項の記述に明記し効果を挙げている。この件に関しては小山孝一郎氏の貢献が大きい。

衛星の概念、手引書と宇宙教育

設計する衛星の概念としては、コンテスト立ち上がりのころ、アリアン社が公募した相乗り衛星を参考とし、形状は一辺45cmの立方体以内に納まり、重量は50kg程度としている。アイデアの部に関しては特に衛星にこだわらず範囲は宇宙活動全般に及ぶものとして今に至っている。

応募するための技術的な手引きとして、第1回ではアリアンロケット相乗り用インターフェイス資料のほかに、50kg級小型衛星の例として工学実験衛星DEBUT「おりづる」、アマチュア通信衛星JAS-1、JAS-2、および英国サリー大学UoSATの各資料が添えられた。

その後手引書は次第に充実され、茂原正道氏に「衛星設計マニュアル」を編んで頂くことになった。また審査過程では審査委員による応募者へのフィードバックという形で教育的指導が行われ、最終審査へ向けて内容のさらなる向上を目指して示唆を与えるというところも特徴と云えよう。

審査と表彰

審査は当初から学界や製造業界の専門家に依頼し、優れた作品を表彰しようという構想があった。募集に応じた提案書に対しては審査委員がつぶさに検討して、「設計の部」、「アイデアの部」それぞれ数件に絞る。絞り込んだテーマについては最終審査会で発表してもらい、設計大賞や各種学会賞が授与されることになっている。年間のスケジュールの中で書類審査はおよそ夏の時期にあたり、膨大な量の提案書を読破し評価するという大役を審査委員諸氏は担うことになる。「ジュニアの部」についての発表形式はポスターセッションとし、これも審査会場における面接と質疑応答の上で受賞の対象となる。

なお提案内容の理解を助ける目的で課した模型の製作においてもかなりの力作が見られることから、のちに模型の出来栄えに対する「模型賞」も制定された。これは実行委員と審査委員と企画委員による投票で選ばれる。ハードウェアに対する若者の意識の低下が懸念される最近の情勢からみても適切な企画であったと考えられる。

最終審査会場

最終審査発表会場の選定は衛星設計コンテストにとって非常に大切な事項である。それには遠隔地からの参加者に対して負担とならぬよう配慮しつつ、限られた予算の中で行う必要がある。初め2回までは北の丸の科学技術館を用いたが、都立航空高専で校長をしておられた島田一雄氏のおかげで同校の汐梨ホールを12回も利用する便宜が得られた。その後は一橋記念講堂で4回、相模原市立博物館で2回、静岡科学館で1回開催しており、事務局には毎度大変苦勞をおかけしている。

コンテストの成長と期待

第1回では当時宇宙開発委員会でもご活躍中の齋藤成文先生に会長就任をお願いした。その次に会長をお願いした野村民也先生のあとをうけて私が長い間その職にあったが、宇宙開発の初期から貢献してこられた折井武氏に最近会長をお引き受け頂いた。新風を吹き込んで下さるものと期待している。

幸い宇宙に関心のある大学、諸学会および諸企業団体に所属する多くの学識経験者によるたゆまぬご支援で成長を遂げ、コンテストも第21回を数えるに至った。第1回のコンテスト設計部門で電子情報通信学会賞を受賞した千葉工業大学提案による「鯨生態観測衛星」（観太くん）は、当時公募されたH-IIA相乗り衛星の一つとして2002（平成14）年12月に太陽同期軌道に乗り、以来5年にわたって軌道上で多くの宇宙技術実証実験を行っている。これは衛星設計コンテストを足場として育ったその後の小型衛星の先駆けとして、宇宙への関心を高める契機となった。コンテストの場を踏んだ多くの後進たちはすでに1000名を数え、宇宙の多くの分野で活躍している状況を見るにつけても大変嬉しく思っている。

2013（平成25）年10月には、平成25年度宇宙開発利用大賞に応募して、本コンテスト実行委員会が宇宙とその利用分野において挙げた業績は顕著であるとして表彰され、文部科学大臣賞を受

賞した。

宇宙は人類の将来に対して極めて多くの可能性を秘めた分野である。本衛星設計コンテストが次の世代を担う若人の勉学と、更なる研究意欲の増進に資する温床として作用し、国の活力に貢献することを願ってやまない。

衛星設計コンテストの発足経緯

第1回～第16回衛星設計コンテスト 実行委員会幹事委員 八坂 哲雄
(九州大学 名誉教授)

はじめ

1980年代後半から90年代のはじめごろは、日本ではN-IIロケットの運用が1987年に終了し、H-Iロケットが中型静止衛星や地球観測衛星を盛んに打ち上げていた。科学衛星分野ではM-3SIIロケットが多く、観測衛星を打ち上げ、宇宙科学最先端の成果をあげていたころである。世界的にはアメリカがスペースシャトルのチャレンジャー号の事故（1986年）からようやく立ち上がり、ヨーロッパではアリアン3号（1984年－1988年）から4号（1988年－）へと発展をとげていた。このようなメジャーな宇宙開発の裏で目立たないながらも、小規模なアマチュア無線通信衛星がアメリカとヨーロッパで出現し始めていた。日本でも1986年及び1990年のピギーバック搭載によるアマチュア無線通信衛星「ふじ-1、2号」、そして同時に打ち上げた「じんだい」、「おりづる」の工学実験が行われた。日本の宇宙開発は「ふじ」を世に出した日本アマチュア無線協会を別にすれば国の機関がもっぱら推進することが常識であったが、一般社会でも宇宙への注目度は高く、特に若い学生達の宇宙に対する熱意は非常に盛り上がっていた。大学側ではまもなく「宇宙」を銘打つ学科の創設のブームを迎えることとなる。大学関係の宇宙との関わりは、一部では理学ミッションの提供をしていたが、工学系では宇宙に関する講義はあっても具体的なプロジェクトに関与することはまず無かった。

ところがイギリスではサレー大学及び大学発のベンチャーであるSSTLが一連の小型衛星を世に出し、アメリカでもウエーバー大学などがOSCARシリーズ（1961年－）を手がけるなどの例が出ていた。日本でも学会関係者の間で若者の熱意とそれを吸い上げるメカニズムのずれを心配する声が上がりはじめた。決定的となったのは韓国がサレー大学の協力でKITSAT（1992年）を打ち上げるという情報であった。韓国の技術者が日本に来た際の会話：

「コストを抑えるために市場に流通しているICを使っています。」

「それでは放射線で故障するとおもいますが・・・」

「実際にどんな風に故障するか確かめることも目的の一つです。」

非常にインパクトのある話であった。先進国からの情報を基に、高価な部品を使うことをア prioriに受け入れてきたものにとって、工学技術とその教育の根幹に迫るものであった。

日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会の関係者の間で、大学での宇宙教育にインパクトを与える企画をしようではないかという話し合いがまとまったのが1992年の春。ロケットや人工衛星を大学の研究室で開発するようにする気運をどうやって作るかというのが目的意識である。そのような気運を盛り上げるために学会がとれる手段として、「衛星コンテスト」を開催するのがよろしかろうという方向に集約されるには時間がかからなかった。しかし、現実には衛星を作れる大学がはたしてあるかということを考えると、「衛星設計コンテスト」がその時点では妥当で

あろうとの結論に至った。

コンテスト実行へ向けて

「衛星設計コンテスト」を行うにあたっての考えをまとめたものを以下に示す。

1. 学会としてのねらい
 - ・若者の宇宙への熱意を吸い上げる
 - ・宇宙工学の底辺拡大
2. 問題点
 - ・大学が宇宙に進出する手がかりが少ない
 - ・教える側に材料が不足
 - ・あまりにも大きなコストを要する
3. コンテストの目的
 - ・学生、教官が宇宙を自ら考える機会の提供
 - ・日本『でも』大学・学生主導の衛星計画を実現
 - ・教育や公共技術開発のための安価な輸送手段への気運
 - ・豊富な宇宙ミッションの発掘

大学・学生主導の衛星を実現するには幾多の課題が存在する。「衛星設計コンテスト」が所期の目的を達成するために、当初からそのような課題への対応を考えた方向にする必要がある。課題と対応策を以下にまとめた。

課題1：コスト

学生の手作りと最小限の購入品
輸送手段は当面ピギーバック

課題2：技術

信頼性の考え方は従来と異なったアプローチを
失敗は最大の教材
専門家の支援

課題3：実現のプロセス

宇宙開発機関の協力（打ち上げ機会など）
教育機関などの協力（資金、カリキュラム）

以上のねらいや課題への対応を考慮して、コンテストの概要を以下のように定めた。

1. 目的
 - 宇宙工学分野の創意・工夫を教育現場において進めるためのモチベーションを提供し、もって宇宙工学の発展を宇宙開発の底辺拡大に寄与する。
2. コンテストの募集要項
 - 設計条件： 重量 50kg、打上げ時寸法 45cm x 45cm x 45cm 以内の人工衛星（Ariane4 ASAP 準拠）
 - 応募資格：高専、学部、大学院の学生（指導教官を含む）の個人またはグループ

応募区分：アイデアの部、および設計の部

提出物： 概要説明書、ミッション解析書
設計の部では設計書を加える
最終審査では模型

参加登録料：5,000円

3. 審査

第一次審査：書類により7～8件

第二次審査：発表会、大賞2件、その他学会賞など

審査基準： ミッションの独創性・意義・理論考察
実現性、技術的根拠
発表インパクト

この企画に対する外部の評価はさまざまであった。そもそも当時の宇宙開発に対するアンチテーゼを含んだものであって、学会活動であるから大目に見ようというのが大体の反応であった。後に述べる第一回の成功を受けた宇宙開発委員会への報告に当たっても、『最初だから何校も応募したけれど、2回、3回となると種切れになるんじゃないか』といったコメントがあった。しかし、中にはその狙い筋が良いと評価する人もあり、後ほど述べる支援の申し出や、コンテスト自体を買い取りたいとの思惑を示す向きもあった。

このような企画を実現しようとする際、一般には費用の工面をまず考えることが普通である。しかし、学会が主導する企画であるからには、学会員のボランティア参加を原則として何とかするとの思いで、とにかく出発することとした。実行委員会委員や審査委員はすべて手弁当の伝統は最初の出だしに作られた。従来のコスト意識を打ち破る衛星を目指す以上、コンテスト自体もコストの壁にしばられるようなまねをすべきでない。現実には、幸い科学技術広報財団から財政支援をいただくことになり、ポスターの印刷や発表会場はかなり立派なものとすることができた。

実行委員会を構成するに当たっては、齋藤成文先生がちょうど宇宙開発委員長を退任されてフリーとなられたときであり、快く委員長を引き受けていただいた。先生は「日本宇宙開発物語—国産衛星に駆けた先駆者たちの夢—」（1992年）を出版し、通信・放送などの国産衛星を推進していた。審査委員長には衛星設計の第一人者であった林友直先生を口説いてやってもらうこととした。最初は予期しなかったが、思ったより多くの応募があり、しかも設計書などびっくりする力作がそろったために、審査委員の皆さんには多大の時間と努力を強いることとなった。審査委員長は毎年退任の申し出をされ、何とか頼み込んで3年間はやってもらうルールができたのも初期のコンテスト以来である。

最初のコンテスト（1993年）

コンテストを始めるにあたり、1992年4月に準備会を設立した。日本機械学会の宇宙工学部門、日本航空宇宙学会の宇宙システム技術および宇宙技術部門、電子情報通信学会の宇宙・航行エレクトロニクス研究専門委員会がそれぞれの部門、専門委員会の委員を派遣して構成した。そして、7

月には齋藤成文先生を委員長に迎えた。三学会が主催とすることには問題なく、関係官庁とも後援の打ち合わせなどをする中で、科学技術広報財団には大変意義あることと認めていただき、結果的に財政援助を含めて共催とすることとなった。ピギーバックのような小型衛星については、林友直先生、中島厚さんなどが中心となり、すでに小型衛星研究会の中で検討を進めていた。そこで、当研究会には協力団体となっていただくこととした。

1992年内に募集を開始し、1993年秋に審査を終えるスケジュールとし、具体的な実行委員会が発足したのは10月。実行委員会が正式依頼をすることで、文部省、科学技術庁、郵政省、宇宙科学研究所、宇宙開発事業団に後援を引き受けてもらった。直ちに、学会誌掲載により募集を開始した。特定の大学などに偏らせないように、全国の211大学・高専にポスターやダイレクトメールを発送した。

1993年3月までに参加登録をしてもらい、詳細な技術資料と応募様式を送ることによって6月までに実際の応募をってもらうこととした。参加登録は31件、実際の応募は21件であった（アイデアの部は13件、設計の部は8件）。作品の内訳を以下に示す。

応募作品内訳

全21件（アイデアの部13件、設計の部8件）

力学：7件

- ・ Ophiuchus 計画
- ・ フリーライニング・ペイロード技術の基礎実験**
- ・ 万有引力の伝わる速度は？
- ・ デュアルスピンホイールに運動エネルギーを蓄積するロボット衛星
- ・ 太陽電池パドルの展開の改良とその検証
- ・ ブラシ機構によるスピン衛星の捕獲実験*
- ・ 可変太陽電池パドルを有する次世代型ロボット衛星の基礎実験

観測：6件

- ・ 大口径レンズ型宇宙電波望遠鏡の可能性
- ・ Project "ITES"（小型衛星による文明活動観測実験）
- ・ 惑星大気のサンプルリターン衛星
- ・ 小型地球撮影衛星の設計
- ・ スピン衛星による簡易全天空スキミング法
- ・ 鯨生態観測用小型衛星システム*

微小重力実験：2件

- ・ 微小重力下実験用小型衛星*
- ・ 生物の概日周期の宇宙実験

通信・電力伝送：2件

- ・ 衛星間電力伝送実験
- ・ 人工衛星を利用した総合安全システム(Safety Service Satellite: SS-SAT)

その他4件

- ・宇宙花火衛星*
- ・人工彗星
- ・人工食衛星
- ・宇宙からのメッセージ

** 大賞 *その他の賞

7月に第一次審査により、アイデア5件、設計4件を選定し、9月の最終審査に向けて審査通過作品に対して通知とモックアップ製作の指示をした。最終審査会は宇宙の日に科学技術館会議室で行った。若者たちの熱の入った発表、モックアップを使った説明、そして、辛らつな審査委員からの質問とそれに対する鋭い切り返しなど、最終審査会は大成功であった。マスコミをはじめとする一般の反応も極めて好意的であった。これを受けて、すぐさま次年度に第二回を開くことを決定した。

コンテストを開くにあたって、実行委員会レベルで陰に隠れた慎重な検討が行われたことを記しておきたい。

- 1) 衛星設計は始まりであり、フライトまでレベルアップして初めて成果を上げることになるという意識があった。そのためには技術のアップのほか、開発経費がすぐさま課題として浮かび上がる。そこまでを見据えたコンテストとするにはどうするか議論があった。スポンサーを募って「冠」付とする案もあったが結局は実現しなかった。
- 2) 創意工夫による設計は必ずや新しい「知的所有権」を生み出すと考えられた。応募と発表の中で、これをどのようにして発案者に属することを明確にし、尊重することができるかを議論した。発表したことは則公知の事実となる。結局、応募書類にその旨を記載して、できるだけ事前の所有権登録をするよう注意を喚起することとした

設計から実衛星へのレベルアップは現在に至るも課題であり続けている。第一回の電子情報通信学会賞獲得作品「鯨生態観測用小型衛星システム」が、2002年12月18日に初めての大学衛星としてフライトしたことは特筆に価する。さらに、当初に狙った目的、「宇宙工学分野の創意・工夫を教育現場において進めるためのモチベーションを提供し、もって宇宙工学の発展を宇宙開発の底辺拡大に寄与する。」は十二分に達したと評価できた。

知的所有権に対しては、決して十分な処置ができてはいないが、実際には問題が浮かび上がったことはないと承知している。これは発表内容が知的所有権に値しないからではなく、各応募者は単に公知とすることで満足しているのであろうと解釈できる。学生の時代から権利意識を明確に意識することは今後とも必要であろう。

衛星設計コンテストと航空高専のかかわり

衛星設計コンテスト 実行委員 島田 一雄
(東京都立航空工業高等専門学校 名誉教授)

1993年2月、私は郵政省通信総合研究所へ出かけた。高専における衛星通信研究の参考とするために、同研究所が開発した安価な衛星通信送受信システム VSAT（超小型地球局）の見学が目的であった。システムは残存していたが、肝心の開発者がすでに転出していて話が聞けず、やや気落ちしていた私に、「折角来られたので、他の研究室もご覧になりませんか」と案内していただいた研究室の机上に、出来たてホヤホヤの第1回衛星設計コンテストの大型ポスターがうず高く積み上げてあった。担当者の方に「東大からも応募してください」と言われ、「いや、東大からシフトして、いま、航空高専にいます」と答えた私は、これはおもしろい、やろうと内心決めたのであった。これがいまに続く21年間の衛星設計コンテストと私の出会いである。

翌日、5年生の通信工学の試験見回りの際に、「こんど、衛星設計コンテストが始まる、答案用紙の裏にこんな衛星を飛ばしたいとアイデアを書いた諸君には加点する」と学生に話した。このことを先の広報担当の方に電話したら大変喜ばれたのが、つい昨日のように思い出される。

航空高専は、第1回に「宇宙大花火大会」（パチンコ玉に光を当てて地球から見よう）と「ヒマ・バチ計画」（ひまわりと蜂の挙動観察）の2つの遊び心のある作品をアイデアの部に提出したが書類審査で落選してしまった。第2回は真剣に取り組み、「微小重力下における液滴の分裂実験」のテーマでアイデアの部にエントリーして書類審査をクリア、最終審査会に望むことになった。

第1、2回の最終審査会は北の丸公園内の科学技術館内サイエンスホールで行われていた。最終審査会のわずか12日前に事務局から私に「貴校は最終審査会でVHSビデオを使用するとのことですが、誠に勝手ながら、使用せずに発表することが可能でしょうか」という電話が入ってきた。私は開口一番「こんな直前になって、全国の出場学生にそんな連絡をしているんですか、さてはデッキ借用の予算がないのでは？」と尋ねたら「実はその通りでして、会場費が一日〇〇万円、机、椅子一脚××××円、白いテーブルクロス1枚△△△円と借用費を積算すると……」の答えに、「情けない話ですね、私がポケットマネーを出しますから、使えるようにしてやってくださいよ、責任者の方にお伝えを！」と私。翌日、「何とか借用する手当てがつけました」とお礼の電話。

第2回審査会終了後には、私が事前のはがきアンケートで提案しておいた審査会終了後の発表者と審査員等の懇親会が初めて開かれたが、肩触れ合う狭い控室での侘しい会であった。丁度、衛星設計コンテストが始まった1993年に航空高専は新校舎を落成、立派なホールが設備されていたので、私は写真入りのパンフレットを携えて行き、懇親会で運営者の方々に配布、無料で最終審査会場に使っていただくことを提案したのであった。

かくして、第3回の最終審査会が航空高専汐梨ホールで開催されることになった。教職員・学生の協力を得て、事務局の担当者の方々と無事に運営することができた安堵感と航空高専の出場学生が見事にアイデア大賞を受賞できた喜びは忘れることができない。天井の高いゆったりとした特別会議室で開催された懇親会の雰囲気を出される参加者の方も多と思う。私の研究室の卒研女子学生が某大学修士の方と“サテコン結婚”したが、その出会いはこの特別会議室であり、私の彼女

へのプッシュが功を奏したとの嬉しいエピソードである。

その後、第14回までの12年間、最終審査会の運営を事務局の担当者の方々に協力してサポートした。航空高専学生は第2回～第14回まで最終審査会に連続出場（うち4回は2作品発表）、東大、東工大と並ぶ常連校となった。全国から宇宙に夢を抱く多くの学生、生徒諸君が毎年集まって来てくれたことに加えて、初代の実行委員会会長の齋藤成文東大名誉教授から「あなたのお陰で衛星設計コンテストがここまで発展してきた」とお褒めいただいたことは非常に光栄であり、その後の私の活動のエネルギーとなっている。

最終審査会のTV取材は皆無であったため、第5回の時に、私は、航空高専が高専で唯一加入していた早稲田大学が中心のデジタル衛星通信の大学間高度共同利用協議会が運用していた衛星通信システムと幕張の文部省メディア教育開発センターがハブ局として運用を始めた双方向衛星通信システム（SCS）とを接続することを提案して、最終審査会の模様をTVと同程度の画像・音声の双方向通信で全国のSCS設置の8大学・3高専に中継配信した。この配信を、審査委員であった評論家の立花隆氏が直後のNHK教育TV『メディアと教育』の番組「デジタル革命が大学を変える、立花隆が語るインターネット時代の“学びとは”」の中で、好事例として紹介、評価されたのは大変嬉しかった。というのは、彼が最終審査会の昼休みに出場校との双方向対話の様子を壇の下でご覧になっていた時に、「どうぞ、上がられてお話しなさいませんか」と壇上からお声掛けした私に怪訝な顔をされていたので、失礼したと反省の私でしたので。

第6回からはインターネットによる全国中継をも同時に実施し、また、第8回には、新設されたSCS車載局の初運用を航空高専でお願いでき、その後も毎年運用していただいたことも記念すべきことである。全国のSCS局への受信勧誘には毎年苦勞をしたが、1局でも多くの局で受信していただくために、スタッフとともに尽力したのも懐かしい思い出である。

私ども教員は、学生の連続出場ならびにこれら中継配信を含む衛星設計コンテスト運営への支援により、1999年度日本工学教育協会業績賞（「衛星設計コンテスト参加による宇宙工学推進への貢献」）を受賞できたことも嬉しいことであった。

1998年には、ハワイで日米の学生の会議が始まり、衛星設計コンテストの常連校の東大と東工大の二校が参加、翌年にはCanSaづくりが始まり、2001年にはUNISECが設立されるなど、衛星設計コンテスト参加校の中から、打ち上げを目指した学生達の衛星開発が始まった。そして、千葉工大の鯨生体観測衛星観太君を皮切りに、東大、東工大等のCubSatなどが順次打ち上げられた。航空高専も遅ればせながら、2009年には、最年少衛星KKS-1を打ち上げることができたのは、衛星設計コンテストに長年、学生、教職員が関わらせていただいたことによるものと深謝する次第です。

衛星設計コンテスト 沿革

西暦	和暦	出来事	日本の衛星（超小型衛星～大型衛星）打上げ	
1993	H5	第1回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：科学技術館 会議室 受賞件数：6 運営委員会設立	2月	あすか (ASTRO-D)
1994	H6	第2回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：科学技術館内サイエンスホール 受賞件数：7	8月	きく6号 (ETS-VI)
1995	H7	第3回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：6	3月	SFU
			3月	ひまわり5号 (GMS-5)
1996	H8	第4回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：7	8月	みどり (ADEOS)
1997	H9	第5回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：7	2月	はるか (MUSES-B)
			11月	きく7号 (ETS-VII)、ひこぼし1997-074B、おりひめ1997-074E
1998	H10	第6回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：11	2月	かけはし (COMETS)
			7月	のぞみ (PLANET-B)
1999	H11	第7回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：10		
2000	H12	第8回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：11		
2001	H13	第9回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：11		
2002	H14	第10回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：11	2月	つばさ (MDS-1)
			12月	みどりII (ADEOS-II)、マイクロサブサット1号機 観生態観測衛星 (WEOS)
2003	H15	第11回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場： 受賞件数：12 独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 発足(3機関統合)	5月	はやぶさ (MUSES-C)
			6月	CUTE-1 (東工大)、XI-IV (東大)
2004	H16	第12回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：12 企画委員会設立		
2005	H17	第13回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：14 ジュニアの部設立	2月	運輸多目的衛星新1号機「ひまわり6号」 (MTSAT-1R)
			7月	X線天文衛星「すざく」 (ASTRO-EII)
			8月	光衛星間通信実験衛星「きらり」 (OICETS) 小型高機能科学衛星「れいめい」 (INDEX)
			10月	XI-V (東大)
2006	H18	第14回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：東京都立航空工業高等専門学校 汐黎ホール 受賞件数：14	1月	陸域観測技術衛星「だいち」 (ALOS)
			2月	運輸多目的衛星2号機「ひまわり7号」 (MTSAT-2)
			2月	赤外線天文衛星「あかり」 (ASTRO-F)、CUTE-1.7+APD (東工大)
			7月	SEEDS1 (日大) (打上げ失敗)
			9月	太陽観測衛星「ひので」 (SOLAR-B)、HIT-SAT (北工大)
			12月	技術試験衛星VIII型「きく8号」 (ETS-VIII)
2007	H19	第15回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：一橋記念講堂 受賞件数：11	9月	月周回衛星「かぐや」 (SELENE)
2008	H20	第16回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：一橋記念講堂 受賞件数：14 最優秀機型賞設立	2月	超高速インターネット衛星「きずな」 (WINDS)
			4月	SEEDS II (日大)、CUTE-1.7+APD II (東工大)
2009	H21	第17回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：一橋記念講堂 受賞件数：10	1月	温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」 (GOSAT) 小型実証衛星1型「SDS-1」、SPRIT-SAT (東北大)、STARS (香川大)、 KKS-1 (航空高専)、PRISM (東大)、SOHLA-1 (まいど1号) (東大阪組合)、かがやき (ソラン)
			9月	宇宙ステーション補給機「こうのとり」1号機 (HTV技術実証機)
2010	H22	第18回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：静岡科学館る・くる (宇宙科学技術連合講演会にあって開催) 受賞件数：11	5月	金星探査機「あかつき」 (PLANET-C) 小型ソーラー電力セイル実証機「IKAROS」 UNITEC-1 (UNISEC)、Negai☆ (創備大)、WASEDA-SAT2 (早大)、KSAT (鹿児島大)
			9月	準天頂衛星初号機「みちびき」
2011	H23	第19回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：一橋記念講堂 受賞件数：14	1月	宇宙ステーション補給機「こうのとり」2号機 (HTV2)
2012	H24	第20回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：相模原市立博物館 受賞件数：18	5月	第一期水循環変動観測衛星「しずく」 (GCOM-W1) 小型実証衛星4型「SDS-4」、風龍2号 (九工大)
			7月	宇宙ステーション補給機「こうのとり」3号機 (HTV3)
			9月	PROITERS (大阪工大)
			10月	RAIKO (和歌山大)、FITSAT-1 (福岡工大)、WE WISH (明星)
2013	H25	第21回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：相模原市立博物館 受賞件数：17 平成25年度宇宙開発利用大賞 文部科学大臣賞受賞	8月	宇宙ステーション補給機「こうのとり」4号機 (HTV4)
			9月	惑星分光観測衛星「ひさき」 (SPRINT-A)
			11月	PecoDragon (ベトナム・東大)
2014	H26	第22回衛星設計コンテスト開催 最終審査会場：機械振興会館ホール 受賞件数：15	11月	WINISAT-1 (カザフスタン)
			2月	全球降水観測計画/二周波降水レーダ (GPM/DPR) STARS-II (香川大)、TeikyoSat-3 (帝京大)、ShindaSat (信州大)、KSAT2 (鹿児島大) 芸術衛星INVADER (多摩美大)、OPUSAT (大阪府大)、ITF-1 (筑波大)
			5月	陸域観測技術衛星2号「だいち2号」 (ALOS-2)

赤字…宇宙ステーション (ISS) から放出

衛星設計コンテスト 最終審査参加作品と受賞作品 (1/7)

回数	賞名	部門	学校名	作品名	メンバー1	メンバー2	メンバー3	メンバー4	メンバー5	メンバー6	メンバー7	メンバー8	メンバー9	メンバー10	メンバー11	メンバー12	メンバー13	メンバー14	メンバー15	メンバー16		
第1回 (1993 年)	設計大賞	設計	東京工業大学大学院理工学研究科機械工学専攻	フリーフライング・ペイロー技術の基礎実験	井澤孝彦	福嶋洋介	青木岳人															
	アイテア大賞	アイテア	東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻	人工衛星を利用した総合安全システム(Safety Service Satellite: SS-SAT)	若林希子																	
	日本機械学会賞	アイテア	東京工業大学大学院理工学研究科機械工学専攻	宇宙花火衛星	宮崎隆雄	柳沢宏	神谷英行															
	日本航空宇宙学会賞	設計	東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻	プラシド機構によるミニ衛星の構築実験	大石光輝	加藤博光																
	電子情報通信学会賞	設計	千葉工業大学大学院工学研究科電気工学専攻	船生能観測用小型衛星システム	渡辺一孝																	
	審査員長特別賞	アイテア	東京工業大学高等専門学校	微小重力下実験用小型衛星	榎本直人	西田進	木部孝雄	倉田憲一	下山哲平	高橋菊正	田中政裕											
	最終審査会参加	アイテア	東京大学大学院工学系研究科産業機械工学専攻	Optichu計画	岩本隆史	中村仁彦	伊藤聡	鈴木高広	松井啓	横内拓明	速瀬泰之											
	最終審査会参加	設計	東京大学大学院理工学研究科航空宇宙工学専攻	衛星間電力伝送実験	野上剛																	
	最終審査会参加	アイテア	東京大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻	Project "ITES" (小型衛星による文明活動観測実験)	西郷隆泰	青山紳一	寺澤洋也	白井達文	水松弘行													
	設計大賞	設計	東京工業大学大学院理工学研究科機械工学専攻	デブリ観測衛星	柳沢宏	福嶋洋介	石井清也	今村征寛	高橋孝	三木淳司												
	アイテア大賞	アイテア	東京工業大学大学院理工学研究科海洋工学専攻	フラネタリウム衛星	高野敦	安光亮一郎	松本裕悟	白高伴紀	伊藤寛之													
	日本機械学会賞	アイテア	東京都立航空工業高等専門学校航空工学科	微小重力下における液滴の分裂実験	苗木龍	石川孝一郎	白川康生	赤穂良延	藤原健	森田二郎	木原仁	壺井秀夫	羽賀実利	中野徳文	中村高志	津井隆司	大古聡秀徳	渡辺静寛	高田一雄	齊藤敏治	笠原美左和	
	日本航空宇宙学会賞	設計	東京工業大学大学院理工学研究科海洋工学専攻	デブリ観測用小型衛星	矢木一博	近藤善大	高石航久	藤原健	藤原健	渡辺聡彦												
	電子情報通信学会賞	アイテア	横浜国立大学工学部建設学専攻	フラネタリウム衛星	高野敦	安光亮一郎	松本裕悟	白高伴紀	伊藤寛之													
	審査員長特別賞	アイテア	東京大学工学部航空宇宙工学専攻	広帯域衛星	岡田久治	尾崎弘子	宮城忍	矢入健久	大谷克己													
	努力賞	アイテア	東京大学工学部機械情報工学専攻	ターミネーター-D	渡辺悠之	祝谷和宏	小嶋憲聖	伊藤聡	船本高宏	船本明哉	中村仁彦											
設計大賞	設計	東京大学大学院	Aerocaptureを利用した希薄大気中初音速運動実験衛星	小畑裕治	大村正法	船井俊裕	吉野大															
アイテア大賞	アイテア	東京都立航空工業高等専門学校	首都圏防災活動支援統合衛星システム	徳山一龍	有澤晋司	及川典泰	小野孝一	藤田佳恵子	横田圭子	平尾隆治	古河哲平	小山直美	澤口剛	西尾裕幸	渡辺静寛	高橋敏治	大古聡秀徳	笠原美左和				
日本機械学会賞	アイテア	東京大学	軌道上での環境構築物の運動特性実験	永村知之	輪島裕之	田村貞志																
日本航空宇宙学会賞	設計	東京工業大学工学研究科機械物理工学専攻	超伝導落下衛星	高橋孝	松本勇治	武井智哉	鶴丸大介															
電子情報通信学会賞	設計	George Washington University	A small communication satellite with capability of monitoring natural hazards	Hung-Sheng Chem	Goeffrey MCoak	Mark A.Johnson	Katherine L.Karr															
審査員長特別賞	アイテア	東京都立航空工業高等専門学校	微小重力下における液滴の液膜の性質	吉田健一	藤井博信	山下弘明	大古聡秀徳															
最終審査会参加	設計	東京工業大学工学研究科機械物理工学専攻	タコロポト衛星	福嶋洋介	山本 宏	林 良一																
最終審査会参加	アイテア	東北大学工学部機械航空工学科	キャッチボール衛星	島 大介	小坂 俊介	細崎 昭夫																
最終審査会参加	アイテア	九州大学大学院	テザーを用いた宇宙探測衛星	中村 泰則	池田 祐次	佐々木 敬	森田 有紀															
最終審査会参加	アイテア	九州大学大学院	Tumble Orbit Transfer実験衛星	後藤 弘毅	池田 祐次	佐々木 敬	森田 有紀															
最終審査会参加	アイテア	東京工業大学工学部	流星ロケット	谷崎 滋宗	五月 剛	伊藤 鷹馬																
設計大賞	設計	北海道大学大学院	運送型燃焼実験衛星	相川 直樹	安倍 聡	萩野 昌宏																
アイテア大賞	アイテア	東北大学	スペースウォーム(宇宙構造物外置試験マイクロロボット)	志和 知子	磯島 幸一	平岡 忠志																
日本機械学会賞	設計	東京大学	フレキシブル太陽電池バルクを対象とする故障試験衛星	小村 秀明	河本 誠太	小林 研彦	胡 煥	立花 隆雄	中村 卓史	三宅 真浩	本橋 聡美	山中 孝介										
日本航空宇宙学会賞	アイテア	九州大学大学院	Space Gas Station-HH 第2段の再利用計画	西原 秀徳	小笠 智彦	高木 望																
電子情報通信学会賞	アイテア	創価大学大学院	人工衛星を利用した自動軍事故障情報システム	笠井 隆之	大原 信夫	牧野 孝雄	清田 英一	中山 哲也														
審査員長特別賞	アイテア	東京都立航空工業高等専門学校	衛星探査ミッションのための宇宙通信ネットワーク	江口 和幸	杉野 暁	若林 良二																
	設計	東京工業大学大学院	テザー利用宇宙遊物体捕獲衛星	林 良一	伊藤 鷹馬	砂押 真治																

衛星設計コンテスト 最終審査参加作品と受賞作品 (2/7)

回数	賞名	部門	学校名	作品名	メンバー1	メンバー2	メンバー3	メンバー4	メンバー5	メンバー6	メンバー7	メンバー8	メンバー9	メンバー10	メンバー11	メンバー12	メンバー13	メンバー14	メンバー15	
第5回 (1997 年)	設計大賞	設計	東京工業大学大学院	通商観測衛星「しらゆき」(DIME)	砂野光光	長谷川誠章	杉浦真紀	吉原圭介												
	アイデア大賞	アイデア	東北大学	ありしこ(空窓星)観測ロボット(The Antlion)	工藤拓	小田芳範	黒須明英													
	日本探検学会賞	設計	北海道大学大学院	超電真空場を利用したGold Welding実験衛星	細川博	岡田啓治	高橋健太郎	渡辺桂史												
	日本航空宇宙学会賞	アイデア	東京大学	中層大気観測衛星	太田泰一郎	前田泰一郎	清水俊之	平間康介												
	電子情報通信学会賞	アイデア	東京都立航空工業高等専門学校	電離層の電子密度測定による地震予知ネットワーク	羽田桂史	玄永哲人	栗原孝子	大角謙	森又和太	内藤健市	若林良二									
	審査員長特別賞	アイデア	愛媛大学大学院	作曲支援衛星	手嶋健太郎	青年孝之	浅川幸紀	久保健一	小原孝則	高橋徳幸	田中紀行			日高康隆	藤井快	松本俊樹	横田洋志			
	審査員特別賞	アイデア	創価大学大学院	可視・赤外線による衛星搭載機器の故障診断システム (Hazard warning Equipment system with B-ImagesHEBI)	三海英和	牧野孝雄	中嶋寛治	小西法人	龍岡大作											
	設計大賞	設計	九州大学大学院	月面回カメラ衛星LUNA200の提案	坂本祐二	中野健二														
	アイデア大賞	アイデア	東北大学	The Jumping Turtle ~微小天体上を移動探査するロボット	浅井亮章	久宮美穂														
	日本探検学会 宇宙工学部門賞 70/77の部	設計	北海道大学大学院	月面回カメラ衛星	伊丹雅洋	淵敏之	加藤隆博	三田崇												
日本航空宇宙学会賞	設計	日本大学大学院	月面回軌道における飛来物観測衛星	楠田昌利	山崎由紀子	石井孝生	水野紗子	原田健作												
電子情報通信学会賞	アイデア	東京大学	全方位通信衛星(Uni-directional Communication Satellite)	井伊宛光	池田一郎	水島隆	田中秀幸	山本秀典												
審査員長特別賞	アイデア	東京工業大学大学院	探検観測支援衛星「はやく」(TISAT)	吉原圭介	杉浦真紀	石井孝雄	宇井恭一	関口正人	中谷孝司	鶴屋成彦	森 淳									
奨励賞	アイデア	東京都立航空工業高等専門学校	物ノ重力がイチゴの成長に与える影響	古賀智平	石井孝雄	下村慎吾	赤木寛	平山寛												
	アイデア	九州大学	地球近傍小惑星(NEO)検出人工衛星	城井洋生	牧野孝雄	佐藤健治	長原聖宣	花田一樹	早川卓											
	アイデア	創価大学	Antipodean Planet(対蹠惑星)の活用	村上健自	青藤美咲	酒匂隆匡	清水俊之	津田雄一	平間康介	太田泰一郎										
	アイデア	東京都立航空工業高等専門学校	月面探検支援衛星「つきまそう」	溝口 崇	加藤義清															
	設計	東京大学	月面探検支援衛星「つきまそう」	前田泰一郎	加藤義清															
設計大賞	設計	東京工業大学大学院	GTC技術試験衛星(つむじ)	鶴屋成彦	澤田弘崇	中谷孝司	森 淳	平井恭一												
アイデア大賞	アイデア	東北大学	BattleSat(B-Sat)による流星群の立体観測	浜野博史	我孫子聡子	高橋 幸														
日本探検学会 宇宙工学部門賞 70/77の部	アイデア	東京工業大学大学院	ロボット衛星群システム	吉原圭介	神野拓也	高橋 幸														
日本航空宇宙学会賞	設計	九州大学大学院	テザーによる衛星軌道変換TOSS	高木望	中村博也	古賀光	鳴海智博													
電子情報通信学会賞	設計	東京大学大学院	放射線環境試験衛星の提案	池田一郎	井伊宛光	永島隆	田中秀幸	山元透												
審査員長特別賞	設計	日本大学大学院	サカイバル衛星	山添由紀子	水野紗子	橋田昌利	生井沢正博	渡田秀樹	磯部洋	小林立心	野村晃司	藤井俊彰								
	アイデア	鹿児島大学	小物体射撃衛星を利用した流星現象の解析	森崎悟	大平幹平															
	アイデア	東京都立航空工業高等専門学校	衛星3兄弟	山口康司	上田ひさこ	氏家健吾	江村知子	小田美香	鈴木大志	鈴木真	徳龍由明	奈良橋亨	西部亮輔	林秀樹	三浦嘉代子	森田将展	山際正信	渡辺智恒		
	設計	北海道大学大学院	集約観測衛星	丹羽樹子	笹木正裕	橋本望	吉川茂雄	渡辺三樹生												
奨励賞	アイデア	東京都立航空工業高等専門学校	宇宙水実験「アクアリウム」	鈴木大志	上田ひさこ	氏家健吾	江村知子	小田美香	鈴木真	徳龍由明	奈良橋亨	西部亮輔	林秀樹	三浦嘉代子	森田将展	山際正信	山口康司	渡辺智恒		

衛星設計コンテスト 最終審査参加作品と受賞作品 (3/7)

回数	賞名	部門	校名	作品名	メンバー-1	メンバー-2	メンバー-3	メンバー-4	メンバー-5	メンバー-6	メンバー-7	メンバー-8	メンバー-9	メンバー-10	メンバー-11	メンバー-12		
第8回 (2000 年)	設計大賞	設計	東京工業大学大学院	JetGun Sat 突風 (Tropu)	宇井恭一	程島竜一	前田直秀	居相政史	岡田英人	菅下直己								
	アイデア大賞	アイデア	東北大学	The TAKO (Target Collaboration)-Flyer(ターゲットを協力化させる衛星回収システム)	中西洋善	小笠原克久	沼田重紀子	野口新										
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 2007年の部	アイデア	東京大学大学院	Space Factory~宇宙空間における大型構造物の組み立て~	堀田政史	松井崇雄												
	日本航空宇宙学会賞	設計	北海道大学大学院	伝流した衛星の調査	中村大輔	草野善之	中山久広	藪田茂										
	電子情報通信学会賞	設計	東京独立科学技術大学	マイクロ波送電技術を応用した軌道センサー衛星の基礎実験	白石卓也	荒井秀夫	中嶋伸幸	藤井洋也	村瀬知彦	山口友範								
	宇宙科学振興会賞	アイデア	東京独立航空工業高等専門学校	衛星写真を利用した人口密度分布の観測	有住聖子	鈴木理浩	鈴木理浩											
	審査員長特別賞	アイデア	東京大学大学院	双方向デジタル衛星投入計画	坂本啓	武市昇	谷澤彰彰	松木早苗										
	奨励賞	アイデア	日本文理大学	太陽へのデジタル衛星投入計画	後藤裕臣	井野口秀昌	水野妙子	山添由紀子	榎本太郎	打木通晴	白沼俊介	芳賀謙二				水見暢志		
	設計大賞	設計	日本大学大学院	ストーム・インサイダー	野村晃司	加藤治久	藤田良	今村俊介	森博子	藤田司	藤田司	吉田誠一	米津啓子	長尾剛司	杉本浩輝	井出草敏	中山伸一	
	アイデア大賞	アイデア	関西大学	人工衛星によるレーザ干渉計型重力波検出システム Gravitational-Wave Satellite (GWA-SAT)	佐々木博幸	金色一賢	丸木真志	石上玄也										
	日本航空宇宙学会賞	設計	日本大学	ゼーベック効果による宇宙空間での発電補助システム	篠崎亮哉	加藤治久	丸木真志	石上玄也										
	電子情報通信学会賞	アイデア	東京大学大学院	LEOLEON(meteor Observer in Low Earth Orbit)-I~ 小型衛星を用いた軌道上からの流星群観測~	中西洋善	加藤治久	丸木真志	石上玄也										
	宇宙科学振興会賞	アイデア	東北大学	フォーメーションフライトによる、干渉合成開口ローダー (INSAR)地球観測ミッション	羽田野玲	金色一賢	丸木真志	石上玄也										
	日本宇宙フォーラム賞	設計	東京独立科学技術大学大学院	衛星衛星システム	平城雅隆	大川祐輔	伊藤有沙	藤井雅也	村瀬知彦	橋本智昭	本田真一	松本千香子						
	審査員長特別賞	アイデア	武蔵工業大学大学院	ULSA(Ultraviolet Telescope-toroidal-toroidal Usher Satellite) 電波マシニング衛星	池田源久	水野昇幸	熊谷進紀	白石卓也										
奨励賞	アイデア	大阪府立大学	The HEBI(Highly Effective Bending Investigator) 探査用へ ヒ型ロケット	熊谷進紀	白石卓也	高橋威	高橋威	片瀬健二	井田聡	太田公平	松本千香子							
設計大賞	設計	東京大学大学院	太陽観測衛星(Franklin-Sat)による成層圏-電離層間探 査実験	青田昭仁	田川哲也	藤井信治	秋田久美子	大塚雅也	三浦有美子									
アイデア大賞	アイデア	Massachusetts Institute of Technology	マイクロ重力を用いた長期金星観測システム(Balloon-Based Long Duration Venus Observation System)	赤澤公彦	藤井信治	藤井信治	秋田久美子	大塚雅也	三浦有美子									
日本機械学会 宇宙工学部門賞	設計	University of Surrey	A Low-Cost Microsatellite Flyby Mission of 4179 Toutatis Effect (MITONGAGE)	桑田良昭	Fred Kennedy	San Kennedy	Ian Coxhill	Emmen Iris	Sanjane Ask	Jeremy Fielding	Velos Lappas	ほか						
電子情報通信学会賞	設計	東京工業大学大学院	ガンマ線バースト観測衛星「風船」	岡田英人	宮下直己	占部聖之	柏宗孝	立川智章	山口伸幸	尾曲邦之	森田鶴太郎	山本佳久						
宇宙科学振興会賞	アイデア	東京大学	METHANE 通信ネットワーク+電カスターンジョン~火星探 査インフラストラクチャーの構築~	新井達也	種敏梁	江野口章人	中田敦治											
日本宇宙フォーラム賞	設計	東京独立科学技術大学	衛星の有利性	石川俊道	吉岡謙介	柏木章之	佐藤大輔	村上千景	石藤勲									
審査員長特別賞	設計	九州大学大学院	自由航行型宇宙ロボット試験衛星	松本浩弘	他													
奨励賞	アイデア	東京工業大学大学院	再生成モジュラー型太陽発電システム	澤田弘崇	中谷幸司	宇井恭一	此上一也											
	アイデア	日本大学大学院	夜光・やこうYAKO~地震の前兆現象の観測~	朝倉英代	橋本和明													
	アイデア	東京独立航空工業高等専門学校	宇宙ステーション内での静電帯電の実験	浜辺順士	伊藤賢一													

衛星設計コンテスト 最終審査参加作品と受賞作品 (5/7)

回数	賞名	部門	学校名	作品名	メンバー1	メンバー2	メンバー3	メンバー4	メンバー5	メンバー6	メンバー7	メンバー8	メンバー9	メンバー10	
第10回 (2006 年)	設計大賞	設計	日本大学	PRIMROSE	山崎政彦	山口晃	真木友太	有田公輔	瓜田彰	岡崎一高	亀山尚志	種田博也	千葉悠太	種田敬史	
	アイデア大賞	アイデア	鳥羽商船高等専門学校	宇宙飛行で心を癒す「ミンゴ」が寝む小さな地球」	三村恭弘	弓場豊大	大山雄佑	宮本大朗	加藤圭一						
	ジュニア部門賞	ジュニア	山口県立厚狭高等学校	宇宙での生活の動物は誰にも与える影響	種田翔平	種田匠史	西島美穂子	沖本重由美	阿部崇津美	種田崇津美	井上真理子	田村千尋	河村裕太	黒石卓	
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 賞の部の部	表彰	東北大学	LASIN	金澤知明	中野謙之	大石まなみ	佐藤和也	吉田純洋	西野恵理子	菅藤伸一	Siudant Phongestorn	山口智史	吉川岳	
	日本航空宇宙学会賞	設計	静岡大学	軌道と振動試験装置IBRD	川崎一誠	大塚元真	岩田昌典	加藤久登	小池雅敏	宇野由起	松村健太	小崎茂徳			
	電子情報通信学会賞	アイデア	防衛大学校	CUMIO-Sat	阪中支也	前田健									
	地球電磁気・地球惑星学会賞	設計	大阪府立大学	小型宇宙天文台「完全星島」	古川琢也	小泉拓郎	久保良介	久保良介	山口智宏	本田徹	福西英司				
	宇宙科学振興会賞	アイデア	東京都立航空工業高等学校	流星「ハース」の生成物散佈分布星「流星号」	森巻拓也	中元隆介	大島徹也	阿久野秀	尾谷裕	森辺雄太	川上哲史	由利泰史			
	日本宇宙フォーラム賞	設計	北海道大学	彗星「トレイ」観測衛星	神原隆浩	柿倉彰仁	岩城裕樹	片野光	金子雄大						
	審査員長特別賞	アイデア	長崎技術科学大学	Bugs' Nest	石井峻徳	菅井光信									
	奨励賞	アイデア	高宮工科大学	人工衛星「落し上り」落し生」	森永隆徳	川岡慎司	基口和弥	和康好利	金藤建治	近藤裕士					
	ジュニア部門奨励賞	ジュニア	山口県立厚狭高等学校	品種改良衛星	種田翔平	種田匠史	西島美穂子	沖本重由美	阿部崇津美	種田崇津美	井上真理子	河本健真	西知行	藤村直裕	
	ジュニア部門奨励賞	ジュニア	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	マッスルカーニバル	北崎亜雅斗	石藤大地	滝沢由樹	新木諒	山本朋彦	佐藤叶木					
	ジュニア部門奨励賞	ジュニア	群馬県立前橋工業高等学校	宇宙工学推進衛星	須田泰行										
第10回 (2007 年)	設計大賞	設計	名古屋大学	宇宙は語る	高塚直樹	木全敬章	水間真紀	金明敏	冨田昌美	中山佳洋	藤井悠太				
	アイデア大賞	アイデア	津山工業高等学校	金星大気の空力加熱制空惑星 VADER	三浦陽比古	原田匠	奥田悠次	藤野有基	私山寛輝	水俣祐弥	青井一樹	藤原裕也	渡邊盛人		
	ジュニア部門賞	ジュニア	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	VAGO	増淵夢丸	野呂未来	田中潮菜	古山綾香	中村翠	大杉涼音	金子洋大	平野早紀	比嘉杏子		
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 賞の部の部	アイデア	東京大学	イオン火山噴出回収衛星「かすみ」	井手和幸	榎大字									
	地球電磁気・地球惑星学会賞	アイデア	鳥羽商船高等専門学校	宇宙工学工場 (Made in Space)	三村恭弘	弓場豊大	加藤貴裕	宮本賢太郎	伊藤有基	伊藤有基	三宅佑哉	羽部宏亮			
	日本天文学会賞	アイデア	慶應義塾大学	オーロラ観測衛星「てんぐ」	田中雅貴	七森泰之	増田大雅	榎田洋一郎	有吉悠哉	大西俊輔	近藤亮	森永幸			
	電子情報通信学会賞	アイデア	高宮工業高等学校	月面探査天文台「Yふりくはずか心〜ん」	久保洋晶	東純平	今井雅文	中田祐樹	榎田洋一郎						
	ジュニア部門賞	ジュニア	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	Shike Ball	戸村成寿	竹内翔平	藤田哲人	窪本隼大	清水太樹	川崎建樹	高柳洋	山崎知里	鈴木泰樹	小澤亜香里	
	ジュニア部門奨励賞	ジュニア	神奈川県立神奈川総合産業高等学校	マッスルリユニオン	原田寛策	菅田悠葉	小澤礼	大澤敬介	榎本和雅	友成恭介	田口礼	岩崎啓徳	平野理沙	高橋智希	
	ジュニア部門奨励賞	ジュニア	香川県立丸亀高等学校	DROPS〜デプリの響〜	森里文哉	榎岡幸久	沖津陽香	鎌谷神子	浅野成美	荒木武重					
	設計大賞	設計	東京工業大学	立林編成飛行衛星「TETRA」	水沼慎太郎	川久保学	細川慎一	三浦尚幸	久我泰雨	秋山盛平	木佐允彦				
	アイデア大賞	アイデア	名古屋府立大学	HATCH	原脩希	田辺竜司	濱口皓太	森隆志	崎野宇一郎	平井里奈	朴真樹				
	ジュニア部門賞	ジュニア	山口県立厚狭高等学校	宇宙での再生医療	松本千恵	足立弥代	水田ひかり	河上崇	種田安伸	折込正太郎	北村直樹	山口義沙登			
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 賞の部の部	アイデア	東京工業大学	月面における微小天体2次軌道計画	木佐允彦	川久保学	赤崎弘樹	岡田博樹	岡口大輔	水沼慎太郎					
日本航空宇宙学会賞	アイデア	東京大学	月周回小型衛星	葛川靖大	山本典子	三村裕也	古川琢也	小林まやか	鈴木晴彦						
電子情報通信学会賞	設計	名古屋大学	北辰	木全敬章	中山佳洋	岩田昌美	福波大悟	島倉諭	林正樹	船島祐博	松島寛樹	森島駿一	若杉一真		
地球電磁気・地球惑星学会賞	設計	大阪府立大学	太陽大圏における斜射線観測衛星「ソラメ」	藤本卓也	江藤力	種田英司	種野隆幸	小野達也	辻那大輔	田中廉平	細田祐志	小泉拓郎			
日本天文学会賞	アイデア	東京大学/総合研究大学院大学	黄道面脱出型天文観測探査機 high-t-z	津村耕司	中宮賢樹	藤野陽介									
宇宙科学振興会賞	アイデア	防衛大学校	CROSS衛星	渡辺聡一	高野泰典	榎井祐也	玉井達汰								
日本宇宙フォーラムジュニア賞	ジュニア	都立八王子東高等学校	~HAE~宇宙への進出	西賢太郎	榎井祐也	玉井達汰									
ジュニア部門奨励賞	ジュニア	立命館高等学校	宇宙で生物は成長できるのか	鳥本優太郎											
ジュニア部門奨励賞	ジュニア	広島県立広島国際高等学校	泡にまつった不思議	南結香子											
ジュニア部門奨励賞	ジュニア	広島県立広島国際高等学校	無重力状態でのソウリンシムの観察	佐藤有理											
最優秀奨励賞	アイデア	東京工業大学	月面における微小天体2次軌道計画	木佐允彦	川久保学	赤崎弘樹	岡田博樹	原口大輔	水沼慎太郎						

衛星設計コンテスト 最終審査参加作品と受賞作品 (6/7)

回数	賞名	部門	学校名	作品名	メンバー1	メンバー2	メンバー3	メンバー4	メンバー5	メンバー6	メンバー7	メンバー8	メンバー9	メンバー10	
第17回 (2009年)	設計大賞	設計	該当なし												
	アイデア大賞	アイデア	東京工業大学	小惑星サンプリング回収機「SPIDER」	石坂和也	藤下拓往	北粟治	大橋大朝	高岡誠一	山岡允裕	中村淳	宮崎智郎			
	ジュニア部門賞	ジュニア	京都府立洛北高等学校	微小重力場における煙の拡散	山口晴生	野口美鈴	野田記	川内雅泰	松本理沙	森田健斗	竹村花亮				
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰 ハースTRD分庁の部	アイデア	東京工業大学	小惑星サンプリング回収機「SPIDER」	石坂和也	藤下拓往	北粟治	大橋大朝	高岡誠一	山岡允裕	中村淳	宮崎智郎			
	日本航空宇宙学会賞	設計	名古屋大学	ϵ -SAT 月球	若杉一真	西面敬義	稲波大悟	本村裕希	寺部亮佑	郭法圭	北村憲司	宮北健	宮田恒平	木全敬章	
	電子情報通信学会賞	アイデア	鳥羽商船高等専門学校	みんなの宇宙絵本	岡田賢	山口康太	松本裕介	フナムフ小沢	亀川歩惟						
	地球電磁気・地球惑星学会賞	設計	首都大学東京	太陽圏分光観測衛星「FLARE」	黄谷敬紀	補設壮太	補設壮太	浅沼匡	岡野仁庸	花田行弥	鈴木信義	小杉幸貴	吉田翔		
	日本天文学会賞	設計	首都大学東京	太陽圏分光観測衛星「FLARE」	黄谷敬紀	補設壮太	補設壮太	浅沼匡	岡野仁庸	花田行弥	鈴木信義	小杉幸貴	吉田翔		
	宇宙科学振興会賞	ジュニア	立命館高等学校	宇宙での生物の成長を細胞・組織レベルから	島本優太郎										
	日本宇宙フォーラム賞	アイデア	日本大学	SPACE OFURO	池田雅央	伊藤美樹	加瀬康裕	早瀬亮							
	慶應義塾賞	アイデア	日本大学	SPACE OFURO	池田雅央	伊藤美樹	加瀬康裕	早瀬亮							
	設計大賞	設計	首都大学東京	ハイブリッドラックホルム探査衛星「ORBIS」	花田行弥	浅沼匡	岡野仁庸	杉山遼	鈴木信義	石井亮介	内田佳秀	小松一史	養王田一尚	春林祐介	
	アイデア大賞	アイデア	該当なし												
	第18回 (2010年)	ジュニア部門賞	ジュニア	山口県立山口高等学校	宇宙大探査機	池田薫	田中翔一朗	陳育勳	桐原史哉	西山祐斗	大藤孝太	石井正哉	大野謙彦		
		日本機械学会 宇宙工学部門表彰 ハースTRD分庁の部	アイデア	帝京大学	微生物動態観測衛星「Teikyo Sat-1」	南茂司	佐野智紀	伊東真平	狩谷祐輔	伊藤麻史	清水隆史	玉井智弘	樋口美奈子		
日本航空宇宙学会賞		設計	名古屋大学	ブラックアウト回避探査衛星「TWINJS」	西面敬義	上野直樹	大駒耕平	服部友哉	青野正章	市原大輔	高原理也	岡野昌夫	森祐也		
電子情報通信学会賞		設計	徳川大学	こねむり	岡本賢太	畑田秀和	那真吾	徳村正樹	堀聖弘	亀村誠人	若山裕記	岡野祐至			
地球電磁気・地球惑星学会賞		アイデア	防衛大学校	電離圏観測衛星群 Ionos	石黒巧真	浦口謙介	齋藤健太	藤澤健太							
日本天文学会賞		設計	首都大学東京	ハイブリッドラックホルム探査衛星「ORBIS」	花田行弥	浅沼匡	岡野仁庸	杉山遼	鈴木信義	石井亮介	内田佳秀	小松一史	養王田一尚	春林祐介	
宇宙科学振興会賞		ジュニア	大阪電気通信大学高等学校	火星に存在する生命の探査	大西耕平	藤原拓夫	星野大地	土谷圭亮							
日本宇宙フォーラム賞		アイデア	東京工業大学	衛星システムシミュレーションによる津波観測	小宮悠太	神宮健	小俣正輝	関口剛太	西原俊幸	森田祥	森井翔太				
奨励賞		アイデア	鳥羽商船高等専門学校	宇宙探査衛星設置	野呂泰史	青木元	山口康太								
慶應義塾賞		設計	首都大学東京	ハイブリッドラックホルム探査衛星「ORBIS」	花田行弥	浅沼匡	岡野仁庸	杉山遼	鈴木信義	石井亮介	内田佳秀	小松一史	養王田一尚	春林祐介	
設計大賞		設計	名古屋大学	電気分光学子カメラ探査衛星「Pisces」	岡原卓夫	中島博文	芥川秀司	鈴木秀明	朝志田和彦	坂本拓史	藤井健太	重野吉史			
アイデア大賞		アイデア	東京工業大学	小惑星探査機「ACTIS」	本田謙彦	宮本大樹	朝賀龍太郎	小笠原一憲							
ジュニア大賞		ジュニア	山口県立山口高等学校	ヒドラ重力走性	池田薫	陳育勳	田中翔一朗	桐原史哉	中野真滯	安部日向子	林美鈴	安永さくら			
日本機械学会 宇宙工学部門表彰 ハースTRD分庁の部		設計	九州大学	微小重力環境モニタリング	上津原正彦	土井彰	有吉雄哉	田川真	堤祐樹	日南川英明	池田沙織	陳弘儒	池村晋吾	中成好崇	
日本航空宇宙学会賞		アイデア	徳山工業高等専門学校	月面基地におけるスターリング発電システム	大山達也	藤本祐平	有金聡	藤枝祐郎							
電子情報通信学会賞	アイデア	東京工業大学	月エンターゼー伝送衛星AMATELUS	荒川清一郎	武井悠人	駿田佑樹	川口正浩								
地球電磁気・地球惑星学会賞	アイデア	高知工業高等専門学校	ラグランジュポイント衛星「LAPOS」	福島光一	東瑞樹	清川彰宏	野中朝元								
日本天文学会賞	アイデア	東京工業大学	小惑星探査機「ACTIS」	本田謙彦	宮本大樹	朝賀龍太郎	小笠原一憲								
宇宙科学振興会賞	アイデア	名古屋立大学	Blue Space Ratio	山下利佳	城愛美	中島徳士	福永祐希	中尾昭世	江口奈津美	落合善喜					
日本宇宙フォーラム賞	ジュニア	山口県立山口高等学校	ヒドラ重力走性	池田薫	陳育勳	田中翔一朗	桐原史哉	中野真滯	安部日向子	林美鈴	安永さくら				
ジュニア部門奨励賞	ジュニア	岐阜県立高山工業高等学校	SATOM-X(サトム エックス)	船崎大輔	後藤和樹	細江亮汰	山藤康美	南 裕介	松葉貴樹	藤本 港	桐江信二				
慶應義塾賞	ジュニア	東京都立戸山高等学校	木星探査機 Hoobe	大村徹	菅原麻司	高橋勇人	林将大	菅澤寛矢	松島聖野	上條圭子	木下優奈	原田拓海	理橋優希	小松智明	
地球電磁気・地球惑星学会賞	アイデア	徳山工業高等専門学校	月面基地におけるスターリング発電システム	大山達也	藤本祐平	有金聡	藤枝祐郎								

衛星設計コンテスト 最終審査参加作品と受賞作品 (7/7)

回数	賞名	部門	学校名	作品名	メンバー-1	メンバー-2	メンバー-3	メンバー-4	メンバー-5	メンバー-6	メンバー-7	メンバー-8	メンバー-9	メンバー-10	
第20回 2013年	設計大賞	設計	該当なし												
	アイデア大賞	アイデア	徳山工業高等専門学校	月の嵐孔・滑着宇宙探査機「Diana」	有金聡	大山達也	藤本祐平	園次佑輔	梶苗真矢	御手洗真人					
	ジュニア大賞	ジュニア	山口県立山口高等学校	コハシザメロボット	赤崎剛	金石映典	田中沙耶香	陳育勳	池田慧	田中翔一朗	山本賢	中野真彌	安部日向子	林義銘	
	日本機械学会 宇宙工学部門表彰賞・S&Aフロンティアの部	アイデア	防衛大学校	デブ!軌道変更衛星	安平浩義	渡辺貴敬	グエンバトロン	グエンバトロン							
	日本航空宇宙学会賞	設計	名古屋大学	レーザ送電衛星「Prometheus」	藤井健太	塚原拓夫	浅野雄太	森本祐貴	浅井崇	吉田健太	松井慎太郎				
	電子情報通信学会賞	アイデア	東京都市大学	ISM-SC(Interesting Space Mission-Spacecraft)	小林久直	中山真哉	江藤智哉	加藤千智	平本成美						
	地球電磁気・地球惑星圏学会賞	設計	National Cheng Kung University	CKUSAT	Yun-Peng Tsai	Hui-Kuan Fang	Hong-Thai Jyun	Jiun-Hsiung Hsiung	Bo-Yi Tseng	Ting-Yang Lin	Jesus Sanchez	Yan-Mei Tseng			
	日本天文学会賞	アイデア	徳山工業高等専門学校	月の嵐孔・滑着宇宙探査機「Diana」	有金聡	大山達也	藤本祐平	園次佑輔	梶苗真矢						
	宇宙科学振興会賞	ジュニア	山口県立山口高等学校	スペーサーシップ	金石映典	赤崎剛	田中沙耶香	陳育勳	池田慧	田中翔一朗	山本賢	中野真彌	安部日向子	林義銘	
	日本宇宙フロンティア賞	ジュニア	山口県立山口高等学校	コハシザメロボット	赤崎剛	金石映典	田中沙耶香	陳育勳	池田慧	田中翔一朗	山本賢	中野真彌	安部日向子	林義銘	
	奨励賞	設計	九州工業大学	放電画像撮影衛星「鳥籠号-X」	世利祐樹	赤崎剛	放電画像撮影衛星「鳥籠号-X」	世利祐樹	赤崎剛	田中道三	田中有十夢	石原弘士	西尾治果	山本一貴	
		アイデア	東京大学	資源探査機「Blue Bird」	猪野雄伍	渡邊拓也	松岡航	高橋明敏	木元新伍	齊藤優也					
		アイデア	防衛大学校	宇宙探査機のためのレーザー基地衛星	グエンバトロン	安平浩義	渡辺貴敬	松岡航	高橋明敏						
		アイデア	鳥羽船舶高等専門学校	宇宙で滑れたてのコヒーゼー	吉村美紅	小山恵里	中野道大	岡崎研一	杉浦秀哉	伊藤友仁					
		ジュニア	宇都宮大学	宇宙太陽光発電技術衛星「STEPS」	山川真由子	三上祐朗	原勇心								
		ジュニア	吉祥女子高校/津山工業高等専門学校	Return-E	榎村千尋	内田悠斗									
		ジュニア	東京大学	宇宙用調理器具の開発～安全食料～	近藤那央	関航佑									
		審査委員長特別賞	設計	National Cheng Kung University	CKUSAT	Yun-Peng Tsai	Hui-Kuan Fang	Hong-Thai Jyun	Jiun-Hsiung Hsiung	Bo-Yi Tseng	Ting-Yang Lin	Jesus Sanchez	Yan-Mei Tseng		
		最優秀者賞	アイデア	東京都市大学	ISM-SC(Interesting Space Mission-Spacecraft)	小林久直	中山真哉	江藤智哉	加藤千智	平本成美					
		設計大賞	設計	National Cheng Kung University	Atmosphere Ionosphere Coupling Explorer (AICE)	Peng Kang-Ming	Lin Ting-Yang	Heng-shan Jansen-Panico	Tsai-Chuang-Hui	Chen Li-Wei	Feng Hui-Kuan	Lin Chia-Ting	Yeh Tsung-Lin	Chen Ming-Te	
アイデア大賞	アイデア	立命館大学大学院	月面砂利回収機「月面探行機」	中島翔太	柳山隆明	榎山和由	榎山和由								
ジュニア大賞	ジュニア	長崎県立長崎西高等学校	お家てれ車 無重力農園	稲澤 真知子	森川 鏡介	松尾 浩太郎	春野 純	太田 勝之	柳山 晃生	鈴木 翔					
日本機械学会 宇宙工学部門表彰賞・S&Aフロンティアの部	アイデア	群馬工業高等専門学校	太陽炉を用いた火星での栽培	新井浩平	天野俊一	岩崎真也	上杉広大								
日本航空宇宙学会賞	設計	東京大学/筑波大学/東海大学/芝浦工業大学/慶義塾大学	地震先行電離圏異常検知衛星	須藤 雄志	門倉 美香	東郷 雅帆	天白 勤	松井一吹	川本 重樹	小野 慎子	由井 庸介	大河原 五郎	熊川 遼太郎		
電子情報通信学会賞	アイデア	電気通信大学	地上電波利用電離圏リモートセンシング衛星	猪狩 晴弘	猪狩 晴弘	山中 拓也	山中 拓也	渡口 朝人	渡井 厚太郎	藤井 厚太郎					
地球電磁気・地球惑星圏学会賞	設計	東海大学大学院	地球周回磁場マップ作成衛星「Pyxis」	小林 正和	近藤 圭佑	内田 H. 隆仁	車野 悠太	高木 啓佑	水森 圭	桑嶋	内藤 佑真	福田 吉記	桑原 瑞季		
日本天文学会賞	設計	日本大学	軌道上離散子カウルカー「BALAENA」	吉原 薫唯	田村 明寛	河原村 大恩	関口 幸輝	立松 祐基	山田 将太	山田 将太					
宇宙科学振興会賞	ジュニア	長野県長野工業高等学校	全国の高校生でつくる小型人工衛星システム	松澤 千晶	吉澤 美菜	吉澤 美菜									
日本宇宙フロンティア賞	ジュニア	長崎県立長崎西高等学校	高校生が共同利用できる小型通信衛星	春野 純	太田 勝之	松尾 浩太郎	福澤 真知子	森川 鏡介	鈴木 翔	柳山 晃生	高橋 遼太郎	金谷 啓之	小林 遼		
奨励賞	アイデア	山口県立山口高等学校	重力から解放された宇宙での思考	金石映典	岩崎七海	吉信 智史	陳 育 雲	末永 大良	高橋 遼太郎	金谷 啓之	富田 耕作	小林 遼	赤崎剛		
設計大賞	アイデア	筑波大学	無重力下の噴水で楽しむ空間	藤田 真輝斗	岩佐 六郎次										
アイデア大賞	アイデア	高知工業専門学校	木星電波観測システムLIMITLESS	島内良章	森園 健吾	南 光成									
アイデア大賞	アイデア	東京都市大学	姿勢制御回復衛星「てらすけ」	内田 光	横松 卓	伊藤 和樹	黒澤 宏太	西島 彬	林 貴裕	和田 拓弥					
ジュニア大賞	ジュニア	若狭学園高等学校	災害時用FMラジオ衛星	榎川 勇太	古谷 泰斗										
ジュニア大賞	ジュニア	山口県立山口高等学校	花咲人工衛星	陳 育 雲	金谷 啓之	赤崎剛	赤崎剛	末永 大良	高橋 遼太郎	富田 耕作	吉信 智史	岩崎 七海	小林 遼		
最優秀者賞	設計	日本大学	軌道上離散子回収衛星「BALAENA」	吉原 薫唯	田村 明寛	河原村 大恩	関口 幸輝	立松 祐基	山田 将太	山田 将太					

応募件数と最終審査会の発表件数

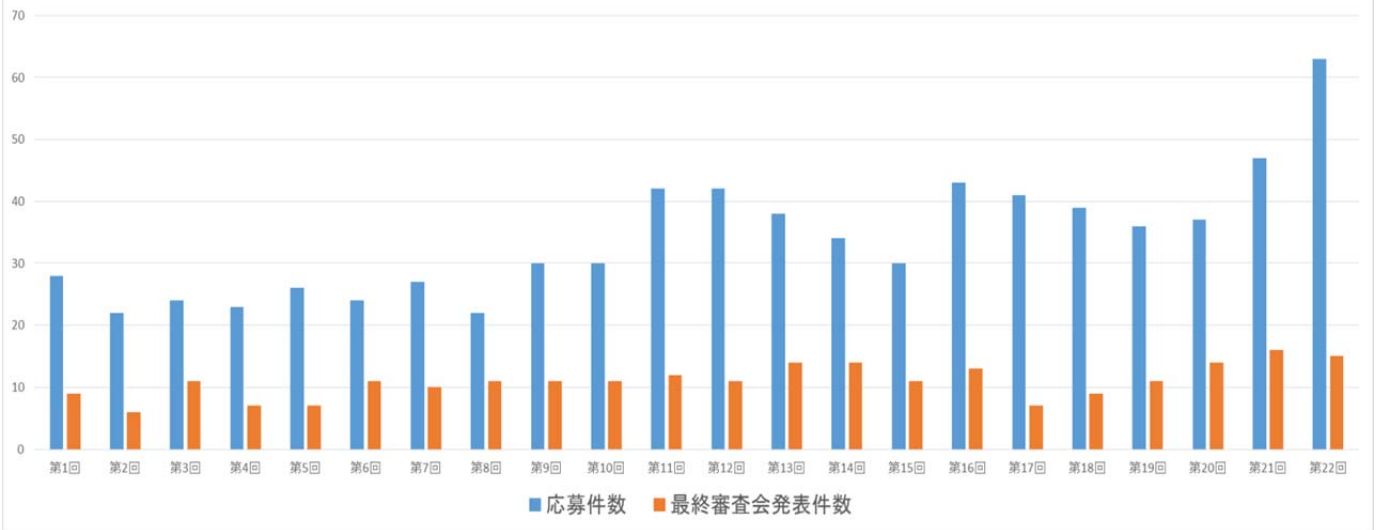
	応募件数			最終審査会発表件数			総数	
	設計	アイデア	ジュニア	設計	アイデア	ジュニア	応募件数	発表件数
第1回	10	18	-	4	5	-	28	9
第2回	7	15	-	2	4	-	22	6
第3回	4	20	-	4	7	-	24	11
第4回	5	18	-	3	4	-	23	7
第5回	8	18	-	2	5	-	26	7
第6回	7	17	-	4	7	-	24	11
第7回	10	17	-	5	5	-	27	10
第8回	3	19	-	3	8	-	22	11
第9回	5	25	-	3	8	-	30	11
第10回	7	23	-	5	6	-	30	11
第11回	13	29	-	6	6	-	42	12
第12回	14	28	-	5	6	-	42	11
第13回	8	21	9	5	5	4	38	14
第14回	7	19	8	5	5	4	34	14
第15回	3	19	8	1	6	4	30	11
第16回	5	22	16	3	5	5	43	13
第17回	5	29	7	2	3	2	41	7
第18回	8	22	9	3	4	2	39	9
第19回	6	20	10	2	5	4	36	11
第20回	3	22	12	3	6	5	37	14
第21回	8	23	16	4	6	6	47	16

受賞件数

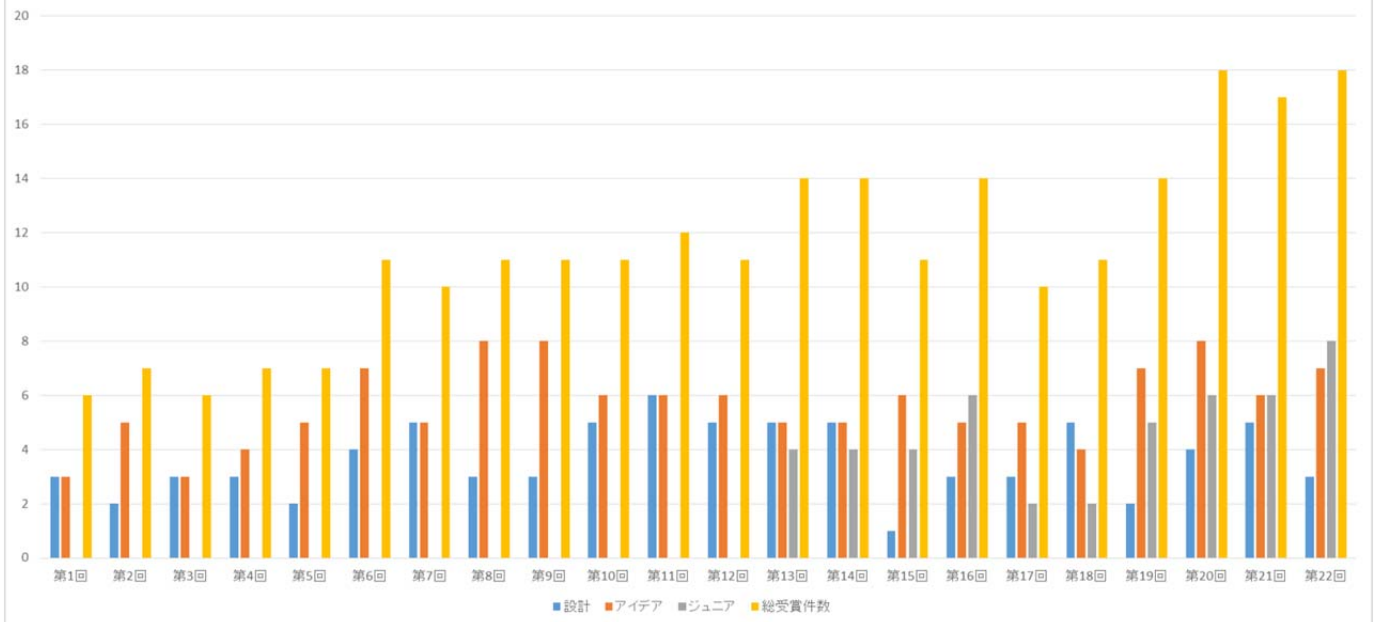
※1件に複数の受賞あり

	受賞件数			総受賞件数
	設計	アイデア	ジュニア	
第1回	3	3	-	6
第2回	2	5	-	7
第3回	3	3	-	6
第4回	3	4	-	7
第5回	2	5	-	7
第6回	4	7	-	11
第7回	5	5	-	10
第8回	3	8	-	11
第9回	3	8	-	11
第10回	5	6	-	11
第11回	6	6	-	12
第12回	5	6	-	11
第13回	5	5	4	14
第14回	5	5	4	14
第15回	1	6	4	11
第16回	3	5	6	14
第17回	3	5	2	10
第18回	5	4	2	11
第19回	2	7	5	14
第20回	4	8	6	18
第21回	5	6	6	17

応募件数と最終審査会発表件数の推移



応募件数 最終審査会発表件数 総受賞件数



第1回衛星設計コンテスト最終審査会の様子



齋藤成文実行委員会長 挨拶



林友直審査委員長 挨拶



表彰状授与

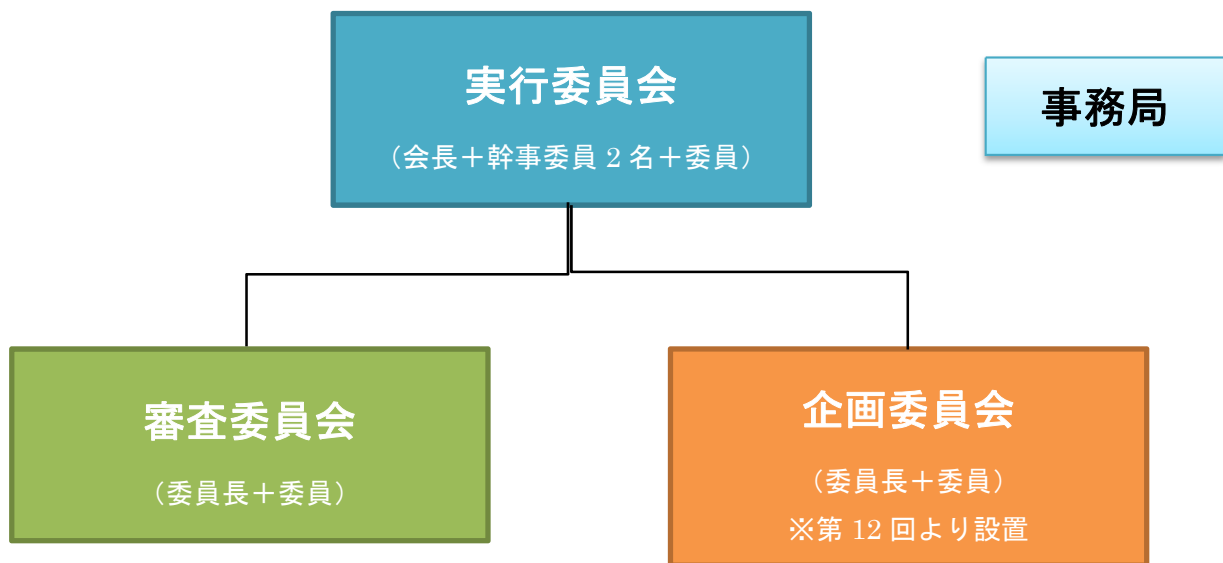


会場の様子

運営体制

衛星設計コンテストは、実行委員会・審査委員会・企画委員会の3つの委員会から成り立ち、委員は日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会、宇宙航空研究開発機構、宇宙科学振興会、日本宇宙フォーラムといった主催8学会・機関からの派遣要員並びに有識者から成り立っている。また、日本宇宙フォーラムが事務局を担当し委員会との調整・学生対応などコンテストに関わる事務作業を担っている。

運営体制図



各委員会の歴代委員は次頁以降の通り。

衛星設計コンテスト 歴代審査委員名簿

役職/所属 (推薦機関)	第1回 H5	第2回 H6	第3回 H7	第4回 H8	第5回 H9	第6回 H10	第7回 H11	第8回 H12	第9回 H13	第10回 H14	第11回 H15	第12回 H16	第13回 H17	第14回 H18	第15回 H19	第16回 H20	第17回 H21	第18回 H22	第19回 H23	第20回 H24	第21回 H25	第22回 H26
審査委員長	林友重	林友重	林友重	西村純	西村純	西村純	三浦公亮	三浦公亮	三浦公亮	秋葉健二	秋葉健二	秋葉健二	秋葉健二	藤澤春任	藤澤春任	藤澤春任	二宮敬彦	二宮敬彦	二宮敬彦	小山孝一郎	小山孝一郎	小山孝一郎
I S A S	中谷一郎	的川朝堂	的川朝堂	的川朝堂	的川朝堂	的川朝堂	吉川真	吉川真	吉川真	青藤宏文	青藤宏文	青藤宏文	青藤宏文	橋本樹明	橋本樹明	橋本樹明	水野俊秀	水野俊秀	水野俊秀	吉光徹雄	吉光徹雄	吉光徹雄
N A S D A	毛羽新	中丸純男	中丸純男	中丸純男	中丸純男	中丸純男	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一	橋本真一
日本無線学会	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一	伊藤新一
日本航空宇宙学会	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康	堀川康
電子情報通信学会	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博	新田信博
C R L (12回よりNICT情報通信研究機構)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地球電磁気・惑星圏学会 (11回より主催)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本天文学会 (15回より主催)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本電気 (10回~14回はNIS)	黒田隆二	黒田隆二	黒田隆二	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武
東芝	-	-	-	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武
三菱電機	-	-	-	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武
ジャーナリスト	中富信夫	中富信夫	中富信夫	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武	折井武
有識者	-	-	-	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸	石崎幸
日本航空宇宙工業会	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治
東海大学	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治
NTT4代/3代/2代研究所	-	-	-	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治
NASA/JPL	-	-	-	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治
USEF	-	-	-	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治
科学技術館	-	-	-	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治
J S F	-	-	-	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治	真鍋剛治

歴代運営委員名簿 (第1回～第5回まで)

役職/所属(推薦機関)	第1回:H15	第2回:H16	第3回:H17	第4回:H18	第5回:H19
総務担当					
小型衛星研究会	狼 薫彰 奥村 幹也 森原 武夫	狼 薫彰 奥村 幹也	中島 厚 奥村 幹也	中島 厚 奥村 幹也 目黒 在	中島 厚 奥村 幹也 目黒 在
電子情報通信学会	渡辺 光庸	大山 香	渡辺 光庸		
科学技術広報財団			福田 徹	福田 徹	
日本宇宙フオースム				山本 善一	
日本航空宇宙学会					山本 善一
企画・運営担当					
日本航空宇宙学会	橋本 英一 角田 博明	角田 博明 熊谷 博貴	中須賀 真一 目黒 在 熊谷 博貴	中須賀 真一 熊谷 博貴	中須賀 真一
日本機学会	中須賀 真一 養木 伸夫	中須賀 真一 水本 宗男	水本 宗男		水本 宗男
電子情報通信学会					
広報・渉外担当					
日本航空宇宙学会	鈴木 良昭 竹ヶ原 善貴	鈴木 良昭 竹ヶ原 善貴	鈴木 良昭 竹ヶ原 善貴	有本 好徳 竹ヶ原 善貴	有本 好徳 竹ヶ原 善貴
財務担当					
科学技術広報財団					
日本宇宙フオースム	佐伯 邦子	大山 香			
技術援助担当					
小型衛星研究会	中島 厚 渡辺 直行	中島 厚 渡辺 直行	中島 厚 渡辺 直行	中島 厚	
日本機学会					
電子情報通信学会					
日本航空宇宙学会					
宇宙開発事業団					

歴代企画委員名簿 (第12回～現在)

役職/所属(推薦機関)	第12回:H16	第13回:H17	第14回:H18	第15回:H19	第16回:H20	第17回:H21	第18回:H22	第19回:H23	第20回:H24	第21回:H25	第22回:H26
委員長	川勝 康弘 日本航空宇宙学会	川勝 康弘 日本航空宇宙学会	川勝 康弘 日本航空宇宙学会	河野 功 日本航空宇宙学会	目黒 在 日本機機字会	目黒 在 日本機機字会	目黒 在 日本機機字会	目黒 在 日本機機字会	目黒 在 日本機機字会	河野 功 日本航空宇宙学会	河野 功 日本航空宇宙学会
日本機機字会	目黒 在 栗林 豊	目黒 在 栗林 豊	目黒 在 栗林 豊	目黒 在 栗林 豊	栗林 豊					吉原 圭介	吉原 圭介
日本航空宇宙学会	河本 聡美 木村 真一	河本 聡美 木村 真一	河本 聡美 木村 真一	高橋 卓	河野 功 高橋 卓	河野 功 高橋 卓	河野 功 高橋 卓	河野 功 高橋 卓	河野 功 高橋 卓	高橋 卓	高橋 卓
電子情報通信学会	細川 敬祐 高橋 幸弘	細川 敬祐 高橋 幸弘	細川 敬祐 高橋 幸弘	細川 敬祐 高橋 幸弘	細川 敬祐 高橋 幸弘	中田 裕之	中田 裕之	中田 裕之	中田 裕之	中田 裕之	中田 裕之
地球電磁気・惑星圏学会				片岡 淳							
日本天文学会					三谷 烈史	三谷 烈史	三谷 烈史	江副祐一郎	江副祐一郎	谷津 陽一	谷津 陽一
宇宙航空研究開発機構					中村 全宏	中村 全宏	荒川 毅	川崎 朋美	川崎 朋美	川崎 朋美	川崎 朋美
日本宇宙フオースム					武石 みゆき	武石 みゆき	武石 みゆき	若松 弘昌	若松 弘昌	若松 弘昌	若松 弘昌

活動記録

衛星設計コンテストでは、学会誌・雑誌等への寄稿や学会等での発表など、広報活動を行ってきた。その一部を以下に記す。

学会誌・雑誌等

- [1] 中須賀：“第1回衛星設計コンテスト優秀作品の紹介”，日本航空宇宙学会誌，第42巻，第481号，pp.12~22,1994.2.
- [2] 島田：“衛星設計コンテスト紹介”，高専の教育と研究，Vol.1，No.3，pp.23~25,1996.
- [3] 島田：“第5回衛星設計コンテスト参加の呼びかけ”，高専の教育と研究，Vol.2，No.2，pp.17~18,1997.
- [4] 島田，若林，鈴木，武藤，田中，浅井，結城，近藤：“UnSATとSCSの接続実験”，電子情報通信学会，信学技報，SAT97-77,1997.11.
- [5] 鈴木，若林，武藤，島田，浅井，結城，近藤，田中：“UnSATとSCS接続実験による衛星遠隔教育への検討”，電子情報通信学会，信学技報，ET98-41,1998.6.
- [6] 島田，若林，鈴木，武藤，浅井，結城，近藤，田中，渡辺，美濃：“2通信衛星システム（UnSAT・SCS）接続実験”，都立航空高専研究紀要，第35号，pp.47~69,1998.9.
- [7] シリーズ対談・立花隆のスーパー好奇心「鯨衛星 宇宙開発に生き残る日本の戦略」，中央公論，pp.168~188,1999.1.
- [8] 島田，若林，鈴木，武藤，田中，浅井，結城，近藤：“SCSとUnSAT接続による「高等技術フォーラム'97」ならびに「第5回衛星設計コンテスト」配信実験”，メディア教育研究，No.2，pp.29~42,1999.3.
- [9] 鈴木，若林，武藤，島田，浅井，杉本，大澤，近藤，田中：“衛星通信による衛星設計コンテスト配信実験遠”，都立航空高専研究紀要，第37号，pp.45~50,1999.9.
- [10] 鈴木，若林，武藤，島田，浅井，山岡，近藤，田中：“SCS車載局とInternetによる「高等技術教育フォーラム2000」ならびに「第8回衛星設計コンテスト」配信実験遠”，都立航空高専研究紀要，第38号，pp.37~42,2000.9.
- [11] 島田：“衛星設計コンテストのあゆみと小型衛星開発の動向”，春秋会（郵政，NTT，KDD，NHK等のOB会）会報，No.33，pp.49~73,2001.11.
- [12] 中須賀：“大学学生による衛星への挑戦 -衛星設計コンテストから手作り衛星へ-”，電子情報通信学会誌，Vol.85，No.4，pp.232~235,2002.4.
- [13] 島田：“中小企業の技術力と学生の知恵で小型衛星・小型ロケットを”，中小商工業研究，第75号，pp.22~32,2003.4.
- [14] 島田：“航空高専「夢衛星」ものがたり”，ヒューマンネットワーク高専雑誌赤とんぼ，Vol.8，pp.30~32,2004.3.
- [15] 島田：“中小企業の技術力と学生の知恵で小型衛星を”，ものづくり夢ステージ in 航専，2004.8.

- [16] 島田：“宇宙に咲け、高専・地域連携の美しい花”，高専の教育と研究,Vol.9,No.2,p.5,2004.
- [17] 伊藤：“衛星設計コンテストにおける学生指導”，高専教育,第 28 号,pp.631~636,2005.3.
- [18] 島田：“『第 13 回衛星設計コンテスト』で高校生がフレッシュなアイデアを披露”，工業教育,Vol-42,No.246,p.14,2006.3.
- [19] 伊藤：“衛星設計コンテストでの学生指導およびその教育的効果”，高専教育,第 30 号,pp.617~622,2007.3.
- [20] 島田：“若者の夢を育む工学教育 - 高専衛星が宇宙に舞うまでの道のり -”，「グローバル新時代、新たな科学技術立国に向けて提言する」,工学研究社, pp.65~77,2010.1.1.
- [21] 伊藤：“第 17 回衛星設計コンテスト参加作品「みんなの宇宙絵本（衛星閲覧ソフト）」”，電子情報通信学会,信学技報,pp.145~149,2010.6.
- [22] 島田：“誕生半世紀の高専と衛星設計コンテストならびに宇宙分野で活躍する高専 OB の紹介”，電波技術協会報 FORN,No.279,pp.24~27,2011.3.
- [23] 伊藤：“衛星設計コンテストにおける学生指導とその成果”，高専教育,第 34 号,pp.733~738,2011.3.
- [24] 島田：“まもなく誕生半世紀の高専を想う”，マテリアルインテグレーション,Vol.24,No.06,pp.3~7,2011.6.
- [25] 島田：“学生の超小型衛星開発への登竜門「衛星設計コンテスト」20 年のあゆみ”，電波技術協会報 FORN, No.285,pp.26~29,2012.3.
- [26] 今井：“木星から地球に届く謎の電波を探る”電波技術協会報 FORN,No.285,pp.30~33,2012.3.
- [27] 島田：“小形衛星活用で純国産“準天頂衛星システム（QZSS）の早期運用を””,航空自衛隊連合幹部会機関紙「翼」金星号,金風随想,No.98,pp.64~66,2012.7.
- [28] 三木：“社会に貢献するアマチュア無線”，電子情報通信学会通信ソサイエティマガジン,No.23,冬号,pp.186~195, 2012.12.
- [29] 北村,三浦：“技術者教育における衛星設計コンテストの活用例～より実践的な技術者育成に向けて～”,電波技術協会報 FORN, No. 291, pp.22~25,2013.3.
- [30] 平社：“高専における宇宙工学分野の PBL（Project Based Learning）”,電波技術協会報 FORN, No.297,pp.24~27,2014.3.
- [31] 河野,若松,榎：“第 21 回衛星設計コンテスト開催報告”,日本航空宇宙学会誌”,第 62 卷,第 4 号,p.143~146,2014.4.
- [32] 藤澤：“第 21 回衛星設計コンテスト宇宙科学振興会賞受賞について”,工業教育,Vol-50,No.297,p.68,2014.9.
- [33] 齋藤,中谷：“衛星設計コンテスト - その歩みと将来 - ”，電子情報通信学会会誌, Vol.97,No.9,pp.778~781,2014.9.

Web 掲載記事

- [1] 島田：“衛星設計コンテストを支える頭脳”,イカロス, Vol.1-1~ Vol.1-3,2001.1.
- [2] 中谷：“衛星設計コンテストについて”,Space Japan Revie,No.52, 2007.10/11.
- [3] 三木：“新時代を迎えるアマチュア衛星”,月刊 FBNEWS, 2014.1.
- [4] 東工大：“東工大の学生が開発した超小型人工衛星 “TSUBAME”宇宙へ向けて旅立つ”,東工大 HP,2014.10.21.

新聞・テレビ等の記事

- [1] “衛星設計コンテスト入賞 都立航空工業高専 東大、横国大と渡り合い”,東京新聞,1994.11.16.
- [2] “7月に衛星設計コンテスト開催 3学会と宇宙開発事業団など共同で”,東京新聞,1995.3.3.
- [3] “都立航空高専の2チーム「アイデア部門」に挑む 第3回衛星設計コンテスト 30日に最終審査会”,東京新聞,1995.7.29.
- [4] “第3回衛星設計コンテスト 入賞作品決定”,L5（日本宇宙少年団機関誌）,1995.11.
- [5] “「第4回衛星設計コンテスト」最終審査会の開催”,NASDA NEWS,1996.12.
- [6] “「大賞」目指す 衛星設計コンテストに挑戦 都立航空高専チーム”,東京新聞,1997.10.25.
- [7] “学生の設計した人工衛星実現も 独創的2テーマに大賞 ありじごく型惑星掘削ロボと南極観測衛星「しらゆき」に”,日本工業新聞,1997.10.31.
- [8] “第6回衛星設計コンテスト 来月18日に最終審査会”,日本工業新聞,1998.9.28.
- [9] “衛星設計コンテスト 11カ所に衛星中継”,日経産業新聞,1998.10.16.
- [10] “大賞に九大の坂本氏ら 機械学会など衛星設計コンテスト”,日本工業新聞,1998.10.26.
- [11] “第6回衛星設計コンテスト最終審査会を開催 設計大賞に九州大学の「月周回カメラ LUNA2001の提案」”,NASDA ニュース,No.205,1998.12.
- [12] “学生「衛星設計コンテスト」宇宙へ飛び出せ「たこ」の原理”,讀賣新聞,2000.10.26.
- [13] “都立航空高専チーム 衛星写真を利用し人口密度分布調査 宇宙科学振興会賞（衛星設計コンテスト）を受賞「発電補助システム」のテーマで奨励賞も”,東京新聞,2000.10.27.
- [14] “衛星設計コンテスト 宇宙開発の夢 若者が独創競う 「流星観測」 東北大大学院 「編隊」 東京大大学院に大賞”,讀賣新聞,2001.10.24.
- [15] “宇宙はもっと近くなる 第11回衛星設計コンテスト 独創性を競う学生らの登竜門 26日、12件で最終審査会 高専3チーム残る”,日本工業新聞,2003.10.23.
- [16] “学生の夢実現へ学生らアイデア 衛星設計コンテスト”,東京新聞,2003.10.27.
- [17] “衛星設計コンテスト受賞者決まる アイデア部門に東工大・青山さんら 設計部門に東大・永山さんら”,日本工業新聞,2003.10.28.
- [18] “学生の夢実現へ学生らアイデア 学生衛星コンテスト”,NHK テレビ「スタジオパーク」,2003.11.28.

衛星設計コンテスト参加者体験記

- [1] 第 11 回 北海道大学：衛星設計コンテスト HP
- [2] 第 12 回 日本大学：衛星設計コンテスト HP
- [3] 第 18 回 首都大学東京：衛星設計コンテスト HP

他学会等での受賞

平成 11 年度（社）日本工学教育協会業績賞受賞

「衛星設計コンテスト参加による宇宙工学推進への貢献」

東京都立航空工業高等専門学校

島田一雄、若林良二、鈴木 弘、武藤憲司

平成 25 年度宇宙開発利用大賞 文部科学大臣賞 受賞（本誌 P31-32 参照）

「高校生から大学院生までを対象とした『衛星設計コンテスト』による、宇宙の啓蒙と次世代宇宙工学技術者等の育成事業」

平成 25 年度日本機械学会教育賞 受賞

「高校生から大学院生までを対象とした『衛星設計コンテスト』による、宇宙の啓蒙と次世代宇宙工学技術者等の育成事業」

事例名 高校生から大学院生までを対象とした「衛星設計コンテスト」による、宇宙の啓蒙と次世代宇宙工学技術者等の育成事業

受賞者 衛星設計コンテスト実行委員会

事例の概要

受賞者は、高校生から大学院生を対象とした衛星ミッションや衛星設計を競うコンテストを行い、衛星設計や宇宙ミッションの創造を通じて、将来の宇宙開発を担う人材を育成してきた。「衛星設計コンテスト」は1993年の設立以来、20年以上に亘り毎年実施されてきており、現在は日本機械学会、日本航空宇宙学会、電子情報通信学会、日本天文学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、宇宙航空研究開発機構、宇宙科学振興会、日本宇宙フォーラムの主催団体のほか、有識者によって組織される受賞者によって運営されている。

選考委員会講評 / 受賞のポイント

- ▶長い歴史の中で、設計・技術に関してきちんとした考え方・道筋を学ぶためのきっかけを若手に提供し続けてきた活動がすばらしい。また実際に設計に終わらず、そこからキューブサットや様々な小型探査機が生まれてきていることも重要な成果で、そこから新しい市場も生まれてきていると考える。市場拡大や高度化・効率化に関しては他との連携も必要であるが、設計コンテストとしての役割を、今後も継続的に実施して欲しい。
- ▶20年にわたり若者の宇宙への関心を高め、宇宙関連の人材育成のすそ野の拡大に貢献してきたことを評価する。

ポイント・具体的成果等

1. 市場拡大への貢献

将来の日本の宇宙開発分野の担い手となる優秀な人材を育てる登龍門としての役割を果たし、これまでに延べ1,000名を超える学生に手厚い教育・指導を行ってきた。大学グループがコンテストに出品したアイデアを具体化させて開発した衛星が、実際に打ち上げられる事も多くなり、宇宙の市場拡大に大きく貢献している。

2. 産業、生活、行政の高度化及び効率化への貢献

コンテスト参加者から、JAXAや宇宙産業に就職する若者を多数輩出しており、世界初のソーラーセイル実証機「IKAROS」や「はやぶさ2」プロジェクトに参画している者もでてきている。

3. 技術への貢献

本コンテストではエントリーした全ての作品に対して、宇宙開発の実践に即した厳しい指摘を示すとともに、学生たちの意欲継続・将来へのステップアップにつながる指導を行うこととしている。その結果、本コンテストを巣立った学生たちの知識や経験がベースとなって継承され、実際の小型衛星の開発や打上げ・運用にまで発展する事例も数多く出てくるなど、技術開発の裾野拡大に大きく貢献している。

4. 普及啓発への貢献

近年では、本コンテストへの参加をSSH（スーパーサイエンス・ハイスクール）の活動の一環として取り入れている高校も存在する。「宇宙」を教育に取り入れ、また若年層への宇宙開発への興味を促進することに貢献している。特に、本コンテストには「ジュニアの部」があり、高校生らの宇宙利用のアイデアを大事にして、育て上げるプロセスを重視している。



第20回衛星設計コンテスト 最終審査会の様子

問合せ先

衛星設計コンテスト事務局

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-1 新御茶ノ水アーバンコミュニティビル2F (一財)日本宇宙フォーラム内
03-6206-4902 <http://www.satcon.jp/>

平成 25 年 10 月 10 日（木）に開催された表彰式の様子



表彰状・副賞



今後の活動について

衛星設計コンテスト 実行委員会会長 折井 武

本衛星設計コンテストは、1993年の設立以来、毎年実施されて、これまでに延べ1,000名を超える学生に、将来のステップアップにつながるような指導やコメントを行うように努めてまいりました。その結果、コンテストに出品したアイデアを具体化した小型衛星が打ち上げられたり、コンテスト参加者から、JAXAや宇宙産業に就職する若者を多数輩出したりしています。

このような長年の活動に対し、昨年これまでの活動に対して功績が認められ、「平成25年度宇宙開発利用大賞」文部科学大臣賞の受賞に至りました。この受賞は、これまで本コンテストに応募されてこられた学生諸君はもとより、本コンテストに関わってこられた指導教官や先生、関係学会や財団および宇宙航空研究開発機構（JAXA）などの関係機関、関係企業など多くの方々のご尽力とご支援をいただいたお蔭です。

そこで今年、22回目を迎えるにあたり、これまでの20年間を超える活動・成果を「20年史（20年の歩み）」として纏めることになったことは、この上ない喜びです。今後の活動の指針にもなり、活用させていただきたいと考えています。

これからも、教育に関する様々な変化にも即応して、活動して行く所存です。日本の宇宙開発・研究・事業・利用分野などを担う人材育成に貢献して行きますので、今後とも一層のご支援、ご指導を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

衛星設計コンテスト 22 周年記念

衛星設計コンテスト 20 年の歩み

発行日：2014 年 12 月 26 日 第一版（概要版）

衛星設計コンテスト 20 年史編集委員会

委員長： 折井 武（衛星設計コンテスト実行委員会会長）

委員： 中島 厚（衛星設計コンテスト実行委員会幹事委員）

前田 惟裕（衛星設計コンテスト審査委員・実行委員）

島田 一雄（衛星設計コンテスト実行委員）

小山 孝一郎（第 19～21 回衛星設計コンテスト審査委員長・現実行委員）

協力： 衛星設計コンテスト事務局

本書に掲載されている一切の無断転載を禁じます。資料使用をご希望の方、また本書に関するお問合せは衛星設計コンテスト事務局までお願いします。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-1 新御茶ノ水アーバントリニティビル 2 階

日本宇宙フォーラム内 衛星設計コンテスト事務局 TEL. 03-6206-4902 FAX. 03-5296-7010